



GLOBALG.A.P.

GLOBALG.A.P. 一般規則

パート III – 認証機関および認定に関する規則

日本語版 5.2（不明点がある場合は英語版を参照してください）

発効日：2019 年 2 月 1 日

義務化への移行日：2019 年 8 月 1 日

目次

1	ライセンスおよび認証の契約	4
2	認証機関の承認プロセス	4
2.1	GLOBALG.A.P. による認証機関の承認	4
2.2	スコープ、サブスコープ、承認済みの修正チェックリスト、およびベンチマーク済みのスキームの拡大	6
2.3	認定機関の要求事項	7
2.4	承認の終了	8
3	運用上の要求事項	9
3.1	一般要求事項	9
3.2	スタッフのトレーニングおよび資格認定	9
3.3	GLOBALG.A.P.と認証機関の認証データ通信	11
3.4	認証機関の独立性、公平性、機密性、および高潔性	12
4	生産者登録および受理	12
4.1	一般事項	13
4.2	生産者の登録	13
5	評価プロセス	15
5.1	オプション 1 生産者	15
5.2	事前通知検査	15
5.3	抜き打ち緩和プログラム	15
5.4	オプション 2 の生産者グループおよびオプション 1 の QMS を伴うマルチサイト	16
5.5	抜き打ち検査（オプション 1 のみ）および監査（QMS のみ）	20
5.6	生産物取り扱い単位の検査（オプション 2 およびオプション 1 の QMS を伴うマルチサイト）	20
5.7	承認済みの修正チェックリスト（AMC）/同等なスキームの外部検査および監査	21
6	認証プロセス	21
6.1	一般事項	21
6.2	検査期間	23
6.3	生産者の不順守および制裁	23
6.4	紙の認証書の要求事項	24
7	認証機関の移行	24
8	認証機関の制裁	26
8.1	一般規則	26
8.2	不順守の種類	27
9	高潔性プログラム - IPRO	28
9.1	ブランド高潔性プログラム	28
9.2	認証高潔性プログラム	29
9.3	認証機関の制裁の手順	31

別紙 III.1: GLOBALG.A.P.の認証機関の検査員資格（オプション 1 および 3）	36
1 GLOBALG.A.P.のサブスコープの検査員	36
2 公式な資格および実務経験	36
3 技術的なスキルおよび資格	36
4 主要な作業	39
別紙 III.2: GLOBALG.A.P.の認証機関の監査員資格（オプション 1 QMS を伴うマルチサイト、ならびにオプション 2 および 4）	41
1 GLOBALG.A.P.のサブスコープの監査員	41
2 公式な資格および実務経験	41
3 技術的なスキルおよび資格	41
4 主要な作業	45
改訂履歴	47

1 ライセンスおよび認証の契約

- a) 「GLOBALG.A.P.ライセンスおよび認証の契約書」は、GLOBALG.A.P.システムの共同コーディネーターとしての GLOBALG.A.P.事務局、および GLOBALG.A.P.システムの枠組みにおける審査、検査、認証、およびライセンス発行の活動のための中立組織としての認証機関（CB）の権利および義務を定めています。
- b) 「GLOBALG.A.P.ライセンスおよび認証の契約書」は、その更新を含め、申請手続きの一部として、認証機関によって受理され、署名されなければなりません。手続きが完了すると、GLOBALG.A.P.による承認済みの認証機関となり、GLOBALG.A.P.のウェブサイトにも認証機関として掲載されます。
- c) 「GLOBALG.A.P.ライセンスおよび認証の契約書」、「GLOBALG.A.P.サブライセンスおよび認証の契約書」、ならびに一般規則は相互に補完するものであり、また GLOBALG.A.P.による承認済みの認証機関は、そのすべてに常に適合するものとします。

2 認証機関の承認プロセス

2.1 GLOBALG.A.P. による認証機関の承認

2.1.1 暫定承認

- a) 認証機関は、GLOBALG.A.P.の検査/監査を行なう前に、また、GLOBALG.A.P.の（オプション 1、オプション 2、またはベンチマーク済みの）認証書（認定済みあるいは非認定）の発行前に、また、暫定承認を与えられる前に、以下に記載された手順を完了するものとします。
 - (i) 申請者である認証機関は、承認プロセスを開始するために、GLOBALG.A.P.の認証機関のエクストラネット（<http://cb.globalgap.org>）に登録し、GLOBALG.A.P.事務局に英語で記入した申請書を送付し、また評価料金を（「GLOBALG.A.P.の料金表」の最新版に従って）支払うものとします。
 - (ii) 申請に対し肯定的な評価を得た後、暫定承認に先立って、申請者である認証機関は以下の手順を完了するものとします。
 - 1. 「GLOBALG.A.P.のライセンスおよび認証契約」への署名
 - 2. 毎年の認証機関のライセンス料を（「GLOBALG.A.P.の料金表」の最新版に従って）支払うこと
 - (iii) 暫定承認の後、あらゆる GLOBALG.A.P.の検査または監査を行なう前に、申請者である認証機関は以下の手順を完了するものとします。
 - 1. GLOBALG.A.P.事務局からのデータベースへのアクセスを受け入れること
 - 2. GLOBALG.A.P.のデータベースにすべての監査員および検査員を登録すること
 - 3. すべての監査員および検査員が、一般規則、関連するサブスコープの管理点と適合基準について必要な GLOBALG.A.P.のオンライン試験を修了すること
 - 4. 「GLOBALG.A.P.の料金表」の最新版に従って、登録された監査員/検査員ごとの関連するトレーニング料を支払うこと

- b) 暫定承認のための 1 つの条件として、オプション 1 の生産者を認証することを目指している認証機関には、一般規則および適用されるそれぞれのサブスコープ・スコープに関する必要なオンライン試験に合格した、少なくとも 1 人の検査員（生産者検査向け）および 1 人の監査員（認証委員会向け）がいるものとします。オプション 2 の生産者グループまたはオプション 1 の QMS を伴うマルチサイトの生産者を認証することを目指している認証機関には、適用されるそれぞれのサブスコープ・スコープに関する必要なオンライン試験と、QMS 監査員の（対面）トレーニングに合格した少なくとも 1 人の監査員（QMS 監査向け）、および少なくとも 1 人の別の監査員（認証委員会向け）がいるものとします。
- c) 認証機関は、(3.2 a)に従って「GLOBALG.A.P.スキーム・マネージャー」1 人を指名するものとします。
- d) 認証機関は、(3.2 c)に従って組織内トレーナーを 1 人指名し、関連するスコープの組織内トレーナー・トレーニングを修了するか、あるいは少なくともそのトレーニングに登録するものとします。
- e) ベンチマークされた基準を認証することを目指している認証機関は、スキームまたは基準のオーナーによって承認された証拠を示すものとします。
- f) 認証機関は、関連する GLOBALG.A.P.のサブスコープおよび承認済みの修正チェックリストにおける、あるいは、関連するフルベンチマークスキームにおける ISO/IEC 17065 の認定について、認定機関（AB）に申請するものとします。認定機関に対するこの申請の確認の写しは、GLOBALG.A.P.事務局に転送されるものとします。（「GLOBALG.A.P.のベンチマーキング規則」参照）
- g) GLOBALG.A.P.事務局は、ひとつ前の ISO/IEC 17065 の認定によって暫定的に承認された認証機関に対し、最終承認に先立って限られた数の未認定の認証書を発行することを許可します。未認定の認証書（オプション 1、オプション 2、ならびにベンチマーク済みのオプション 3 および 4）を受け取ることができる生産者の最大数は、スコープ（農作物、家畜、または水産養殖）ごとに 20 戸です。

例 1: 認証機関に、33 戸の生産者を含む 1 つの生産者グループ（オプション 2）がある場合、33 戸の生産者のうちの 20 戸だけに未認定の認証書を発行することができますが、認定を受けるまで、あらゆるオプション 1 またはオプション 2 の生産者に対し、さらなる認証書を発行することはできません。あるいは、認証機関は、20 戸の個別生産者に 20 件のオプション 1 の認証書を発行することができます。

例 2: 認証機関は、12 戸の生産者を含んでいるオプション 2 の生産者グループに対し未認定の認証書を、また 8 戸の個別生産者に対し 8 件の未認定のオプション 1 の認証書を発行することができます。（つまり、オプション 2 のグループには関係しない、合計で 20 戸の生産者の場合）

例 3: 認証機関が、IFA 青果物、IFA 花卉観葉植物、ならびに IFA 養豚を申請しています。認証機関は、IFA 青果物と IFA 花卉観葉植物について合計で 20 戸の生産者（個別生産者またはオプション 2 のグループ・メンバー）に非認定の認証書を発行することができ、また 20 戸の豚生産者に対し非認定の IFA 認証書を発行することができます。

- h) 事前に ISO/IEC 17065 の認定がなく、まだ GLOBALG.A.P.に認定されておらず、暫定的に承認されている認証機関に対して、認定の申請期間に限られた数の未認定の認証書を発行することを許可するために、GLOBALG.A.P.事務局が定めた条項があります。これらの認証機関は、最初はオプション 1 のみ、かつ 1 つのスコープのみの認定を申請するものとします。オプション 1 の認定を取得すると直ちに、認証機関はその他のスコープに申請することができ、および/またはオプション 2 の認定を申請することが

できます。最初のスコープの承認のために未認定のオプション 1（ベンチマーク済みのオプション 3）の認証書を受け取ることができる生産者の最大数は、5 戸です。

- i) 未認定の認証書は、適用される認証書のテンプレートの要求事項に適合するものとしませんが、GLOBALG.A.P.のロゴも認定機関のロゴも示さないものとします。

2.1.2 最終承認

認証機関は、認定された GLOBALG.A.P.の認証書を発行する前、または認定された GLOBALG.A.P.アドオンを運用する前、および最終承認を得る前に、以下の手順を完了するものとします。

- a) 認証機関は、暫定承認日の後 6 か月以内に、ISO/IEC 17065 の認定を取得するものとします。認定機関が遅延の正当な理由を提示する場合、この期間は 6 か月間延長することができます。認証機関は、GLOBALG.A.P.に正当な理由を提出しなければなりません。
- b) 一旦認定を取得したならば、認証機関は GLOBALG.A.P.事務局に認定の証拠の写しを送付するものとします。
- c) 最長で 1 年以内に認定が取得できなかった場合、遅延の正当な理由を提出しない限り、暫定承認は撤回され、また GLOBALG.A.P.のウェブサイト上でその認証機関は暫定承認された機関として出てこなくなり、一切の GLOBALG.A.P.の認証書を発行することができなくなります。認証機関は暫定承認を再度申請することができます。
- d) 最終承認のための 1 つの条件として、暫定承認された認証機関には、適用されるサブスコープに対応できる必要なトレーニングを修了した少なくとも 1 人の組織内トレーナー（3.2 c)に従って）がいるものとします。
- e) 認証機関は、GLOBALG.A.P.のデータベースにすべての監査員および検査員を登録するものとします。
- f) 登録された監査員および検査員は、一般規則、関連するサブスコープの管理点および適合基準について必要な GLOBALG.A.P.のオンライン試験を修了するものとします。彼らの業務言語で受験することができます。
- g) オプション 2 またはオプション 1 QMS を伴うマルチサイトの認証を予定している認証機関には、対面式の QMS 監査員トレーニングを含む別紙Ⅲ.2 に定められる監査員資格要件を満たしている少なくとも 2 名の監査員がいるものとします。
- h) 認証機関は、「GLOBALG.A.P.の料金表」の最新版に従って、登録された監査員/検査員ごとに関連するトレーニング料を支払うものとします。
- i) GLOBALG.A.P.(またはベンチマーク済み基準)の該当するサブスコープについてその認証機関が ISO/IEC 17065 に認定された後で初めて、認証機関は GLOBALG.A.P.の認証書のテンプレートに従って認証書に GLOBALGAP の商標/ロゴを付けることができます。

2.2 スコープ、サブスコープ、承認済みの修正チェックリスト、およびベンチマーク済みのスキームの拡大

- a) GLOBALG.A.P.の認証スコープを拡大したいと考えている GLOBALG.A.P.承認済み認証機関は、2.1 に述べられているすべての手順および要求事項に従わなければならない、新しいスコープの認定を申請した

後、GLOBALG.A.P.基準のスコープ拡大の契約書に署名するものとします。PSS、HPSS、CFM、AMCs、ベンチマークスキームなど、あるいは、localg.a.p.プログラムや GLOBALG.A.P.アドオンなどは新しいスコープとみなされます。

- b) 1 つの認証スコープ内のサブスコープを拡大したいと考えている GLOBALG.A.P.承認済み認証機関には、GLOBALG.A.P.の特定のサブスコープの要求事項（別紙 III.1 および III.2）に適合する検査員、または監査員が最低 1 人いるものとします。正式な申請書が GLOBALG.A.P.事務局に送付されなければなりません。認証機関は、その新しいサブスコープの認定を申請しなければなりません。
- c) スコープまたはサブスコープの拡大のための前提条件（暫定承認ステータス）は、新しいサブスコープのために 1 人の組織内トレーナーが稼働できることです。トレーニングの機会がない場合、認証機関は少なくとも次回予定されているトレーニングに登録しなければなりません。認証機関が該当する組織内トレーニングに不参加、または不合格となった場合、その暫定承認は撤回されるものとします。
- d) 同じスコープおよびサブスコープ内で、AMC またはベンチマークスキームに対して承認を拡大しようとしている GLOBALG.A.P.承認済み認証機関は、GLOBALG.A.P.事務局に申請要求を送付するものとします。

2.3 認定機関の要求事項

- a) 認証機関が申請する認定機関は、GLOBALG.A.P.サブスコープに関する製品認証の国際認定フォーラム（IAF）国際相互承認協定（MLA）レベル 4 および 5 の署名者であるものとします。加えて、認定機関は、GLOBALG.A.P.との「覚書」（MoU）に署名するものとします。
- b) 認証機関に対して認定機関によって発行された認定文書は、次のことを明確に述べているものとします。
 - (i) 認定するサブスコープの範囲および/または承認済みの修正チェックリスト
 - (ii) GLOBALG.A.P.の基準文書およびそのバージョン
 - (iii) （該当する場合）オプション 1 の制限
 - (iv) （該当する場合）地域の制限
- c) GLOBALG.A.P.のスコープ（農作物、畜産、または水産養殖）の最初の認定機関評価は、それぞれの該当するスコープで（1 つのサブスコープの）少なくとも 1 回の実地確認による評価を必要とします。

例：ある認証機関が、花卉および観葉植物ならびに青果物の認定を同時に申請しようとしています。認定機関は、青果物の検査だけを実地確認して、両方のサブスコープについて認定を与えることができます。花卉および観葉植物の検査は、4 年後の実地確認でサンプリングされなければなりません。
- d) 認定機関が、スコープまたはサブスコープにかかわらず、少なくとも 1 つの QMS 監査の実地確認による評価を完了している場合、認定機関はオプション 2（オプション 1 QMS を伴うマルチサイトの作業を含む）についてのみ認定を与えることができます。

例：ある認証機関が、QMS を含む青果物および水産養殖の認定を同時に申請しようとしています。認定機関は、青果物の QMS 監査だけを実地確認すれば、両方のスコープのオプション 2（オプション 1 QMS を伴うマルチサイトを含む）について認定を与えることができます。

- e) 既に認定されているスコープ内の新しいサブスコープに対する認定の拡大には、少なくとも要員の能力の評価を含んでいれば、新たな実地確認による評価は必要ありません。ベンチマークスキームおよび AMC は、（それぞれのサブスコープに対して）同等なサブスコープと見なされます。

例: ある認証機関が、青果物、ならびにニュージーランド GAP の青果物の認定に同時に申請しようとしています。認定機関は、検査の実地確認を 1 つの基準で行うか、あるいは両方の基準で行うかを定めることができますが、いずれにしても両方に対して認定を与えることができます。これは、c)、d)、e)、および f) 項にも適用されます。

- f) 認定機関は、サーベイランス・プログラムの間に、毎年すべてのスコープ/サブスコープの組み合わせを実地確認する必要はありませんが、少なくとも 4 年間のうちにすべてのサブスコープを実地確認するものとしします。対象を選ぶ際には、その認証機関のオプション 2 およびオプション 1 QMS を伴うマルチサイトの認証を優先します。認定機関は、実地確認による評価の頻度を増やす場合にはその正当性を説明しなければなりません。

例: ある認証機関が、1 つのサブスコープのみ認定を保持している場合（例えば、青果物）、認定機関は、初回認定後、4 年以内に青果物を 1 回だけ実地確認します。もしもその認証機関が青果物および養豚について認定を保持している場合、認定機関は、初回認定後、4 年以内に 1 回だけ 2 つの実地確認（青果物および養豚）を実施します。

- g) GLOBALG.A.P. は、認定機関のエクストラネットを介して、認定機関に関連する高潔性プログラムおよび苦情管理システムのすべての記録へのアクセス権を提供します。認定機関は、認定機関のエクストラネットの内容を少なくとも年一回レビューし、次回の評価でこのことを考慮に入れるものとしします。認定機関は、GLOBALG.A.P. によって行われる高潔性評価への参加を促されます。
- h) 要求に応じて、認定機関は GLOBALG.A.P. に最新の認定評価の結果および報告書を送付するものとしします。この場合には、認証機関に通知されるものとしします。
- i) 認定機関は、申請者である認証機関に適用する基準のスコープおよびサブスコープを含む、申請確認書を発行するものとしします。

2.4 承認の終了

認証機関が「GLOBALG.A.P. ライセンスおよび認証契約」の終了を要求した場合には、以下の措置が取られるものとしします。

- a) 認証機関は、GLOBALG.A.P. 事務局に正式な終了要求を送付するものとする。
- b) 認証機関は、再認証が別の認証機関によって実施されなければならないことを、すべての顧客に通知するものとする。
- c) 認証機関は、GLOBALG.A.P. のデータベースについては何も修正または更新する必要はない。生産物が次のサイクルで再承認されない場合、一旦現在の認証書は期限切れになるが、新しい認証機関は生産者の GGN を引き継ぎ、再認証することができる。
- d) 指定した日付以降、認証機関は GLOBALG.A.P. のデータベースから排除され、また新しい顧客あるいは有効な認証書の再発行および延長の登録をすることはできません。

- e) 認証機関は、既存の認証書の変更、認証書の有効期間の短縮、既存の生産者のアクセス権の変更、マスター・データの修正、苦情など、あらゆる変更に関してカスタマーサポートチームと連絡を取るものとしします。
- f) 認証機関は、認定機関に通知するものとする。
- g) 最後の認証書が期限切れとなるまで、認証機関は GLOBALG.A.P.のウェブサイトに掲載されるものとする。認証機関は生産者を契約/認証することができず、また、指定した日付をもって GLOBALG.A.P.の承認が終了するという追記がされるものとする。
- h) 認証機関に今年および/または翌年のライセンス料が適用されるかどうか、それ以上のトレーニングが行われるかどうかは、GLOBALG.A.P.によって決定されるものとする。

3 運用上の要求事項

3.1 一般要求事項

- a) 一般規則に記載されたすべての項目は承認され、すべてのスコープ、サブスコープ、および承認済みの修正チェックリストの GLOBALG.A.P.認証に関連する認証機関の運用文書に網羅されており、また認定機関評価のために入手可能であるものとしします。この承認済みの修正チェックリストの要求事項は関連するサブスコープの要求事項への適合によって満たされます。
- b) 認証機関は、毎年の認証ライセンスおよび認証書の料金を支払うものとしします。
- c) 認証機関は、GLOBALG.A.P.登録済みの顧客に、関連するすべての更新、および GLOBALG.A.P.基準文書の新しい版の最初の適用日および移行期間を連絡する責任があります。
- d) GLOBALG.A.P.は、事前に通知し費用も自己負担するという条件で、認証機関が実施する検査または監査に参加する資格があるものとしします。
- e) 認定評価を容易にするため、認証機関およびそれらの活動に関して GLOBALG.A.P.によって収集された情報は、高潔性プログラムおよび苦情管理システムの記録を含め、認証機関エクストラネット上で認定機関に開示されます。
- f) 認証機関は、GLOBALG.A.P.スキームの管理に関連する要員の変更（例えば、スキーム・マネージャー、組織内トレーナーなどの変更）、および独立した認証機関としての機能に影響を与える可能性があるすべての変更、とりわけ認定の取り消しまたは企業変化について、すみやかに GLOBALG.A.P.に通知するものとしします。
- g) 認証機関は、認証機関あるいは認証機関が契約した生産者に関連する苦情の管理において、GLOBALG.A.P.と積極的に協力するものとしします。

3.2 スタッフのトレーニングおよび資格認定

- a) GLOBALG.A.P.事務局によって承認されたすべての認証機関は、「GLOBALG.A.P.スキーム・マネージャー」と呼ばれる 1 人の連絡窓口を任命するものとしします。この者は、GLOBALG.A.P.事務局に対する認証機関の代表者となります。この者の要件は以下のとおりです。
 - (i) 英語に堪能であるものとしします。
 - (ii) 承認されたサブスコープの 1 つについて、少なくとも GLOBALG.A.P.の検査員（別紙 III.1 の GLOBALG.A.P.検査員の要求事項を参照）としての資格を持つものとしします。

- (iii) GLOBALG.A.P.事務局によって行なわれる、あらゆる調和のための活動を援助することを約束するものとします。
 - (iv) 組織内の人員とします。つまり、認証機関によって臨時に採用されるのではなく、認証機関の運営および/または経営意思決定プロセスの一部であることとします。
 - (v) 書面による受領を必要とするすべてのやりとりについて、要求された署名済みの受領書をGLOBALG.A.P.事務局に返信する責任を負うものとします。
 - (vi) GLOBALG.A.P.システム内の使用者との連絡および管理に責任を負うものとします。
 - (vii) やりとりの中で求められる GLOBALG.A.P.の運用に関する質問に返答するものとします。GLOBALG.A.P.スキーム・マネージャーが対応できない場合、代行者がこれらの責任を負うものとします。
 - (viii) GLOBALG.A.P.事務局から受け取ったすべての連絡事項は、GLOBALG.A.P.の活動に関与するすべての国のすべての認証機関スタッフに配付されるものとします。
 - (ix) 毎年のスキーム・マネージャー（更新）会議に出席するものとします。これは認証機関の年次の責務です。スキーム・マネージャーがその年の途中で変わっても、スキーム・マネージャー（更新）会議へその同じ年に再度出席する必要はありません。スキーム・マネージャーが医療休暇（例えば、出産）中である場合、認証機関は力量のある別の GLOBALG.A.P.の代表者を送ることができます。
 - (x) スキーム・マネージャーは、組織内トレーナーと同じ人物でも差し支えありません。
- b) GLOBALG.A.P.の検査および監査を実施するために、認証機関は、GLOBALG.A.P.の要求事項（別紙 III.1 および III.2 をそれぞれ参照）を満たす検査員および監査員だけを雇用/契約するものとします。すべての検査員/監査員は、すべてのサブスコープ特有の要求事項を満たさなければなりません。（つまり、1 人の監査員または検査員の能力で完了することに対して、監査/検査に 2 人を送ることは許されません）
- c) 最終的に承認されたすべての認証機関には、サブスコープおよびバージョン（つまり、IFA バージョン 5）について特にトレーニングを受けた認証機関組織内トレーナーがいなければならず、登録された GLOBALG.A.P.監査員および検査員が別紙 III.1 および付則 III.2 に定められた要求事項へ適合することを確実にする責任を負うものとします。この者の要件は以下のとおりです。
- (i) 関連するサブスコープおよびバージョンについての認証機関の組織内トレーナー・トレーニング試験に合格する必要があります。試験のいずれかのパートで 2 回不合格となった場合、GLOBALG.A.P.の認証機関の組織内トレーニング・コースに再度参加し、試験に合格する必要があります。
 - (ii) 組織内の人員とします。つまり、認証機関によって一時的に雇用された者でないこと。その者は、スキーム・マネージャーと同じ人物であってもよく、また認証機関には、異なる基準またはサブスコープを対象とする 2 人以上の組織内トレーナーがいても差し支えありません。
 - (iii) 少なくともそれぞれのサブスコープの検査員の資格要件を満たすものとします。
 - (iv) （GLOBALG.A.P.に基づいて）すべての GLOBALG.A.P.の監査員および検査員をトレーニングする責任を負うものとします。

- (v) 人事異動があった場合には、新任者は 3 か月以内に必要なトレーニングを修了するものとします。
これが実施不可能な場合、新任者は開催予定のトレーニングコースに 3 か月以内に登録するものとします。
- d) 対面の QMS 監査員トレーニングを含む、別紙 III.2 で定められた監査員資格要件を満たしている監査員だけが、QMS 監査を実施することができます（オプション 2 またはオプション 1 の QMS を伴うマルチサイト）。業務言語での利用可能な場合、IFA バージョン 4 承認されたすべて監査員は、QMS オンライン試験に合格した後、バージョン 5 における QMS 監査を実施することについて自動的に再承認されます。認証高潔性プログラム（CIPRO）の結果が低い監査レベルを示した場合には、それぞれの監査員は QMS トレーニングを繰り返すものとします。
- e) すべての検査員および監査員は、GLOBALG.A.P.のオンライン・テスト（更新部分の試験を含む）を、その検査員/監査員の業務言語で利用できるテストが公表されて 3 か月以内に、修了するものとします。組織内トレーナーは、プロセスの真偽および完全性を監視するものとします。新しい検査員は、契約する前に、関連するサブスコープのオンライン・トレーニングを修了するものとします。検査員/監査員が 2 つ以上の認証機関で働いている場合、それぞれのサブスコープのオンライン・トレーニングおよび試験は 1 回修了すればよいものとします。ただし、検査員/監査員は働いている各認証機関に登録されている必要があります。組織内トレーナーは、組織内トレーニング（IHT）試験ですでに合格したサブスコープのオンライン試験に合格する必要はありません。
- f) GLOBALG.A.P.には、認証機関によって承認された検査員および監査員の資格の証拠をランダムに求める権利があります。認証機関が求められた証拠を提出することができなかった場合、および/または検査員ならびに監査員が資格要件を満たしていない場合、GLOBALG.A.P.は、GLOBALG.A.P.のデータベース上でその人物を除名し、関連する認定機関に通知する権利があります。
- g) 認証機関は能力を検証するために、GLOBALG.A.P.のそれぞれの検査員/監査員について、立ち合い評価、および/または再検査を、少なくとも 4 年に 1 回実施するものとします。
- h) 認証機関は、初回トレーニングおよび能力の維持についての要求事項を含む、検査員/監査員の資格要件を検証し、記録し、監視するものとします。
- i) 認証機関は、検査員および監査員の継続的な目あわせおよびトレーニングのための体制を整備しているものとします。認証機関は、検査員/監査員に毎年内部で復習/更新トレーニングを実施するものとします。それらのトレーニングの記録を保持しなければなりません。
- j) 試験に合格した後に、GLOBALG.A.P.の準会員の認証機関の組織内トレーナーは、GLOBALG.A.P.が認定するパブリック・トレーナーになることができます。これには別途申請が必要です。これらの組織内トレーナーは、この目的のために追加のトレーニング/試験に合格する必要はありません。パブリック・トレーナーのリストは、GLOBALG.A.P.のウェブサイトに掲載されます。

3.3 GLOBALG.A.P.と認証機関の認証データ通信

- a) この目的は、以下の情報を「いつでも、瞬時に、世界中で知る」ことができるようにするためです。
- (i) 現在のステータスおよびステータスの履歴
 - (ii) 認証済みの生産物
 - (iii) それぞれの面積/数量

- (iv) それぞれの固有の生産者（法人）
 - (v) すべてのスキームおよびオプション（生産物ごと）
 - (vi) 市場参加者による認証書の中央検証（オンライン検証ツール）
 - (vii) 監査/検査および適合の詳細
- b) したがって、GLOBALG.A.P.と認証機関のデータ通信は、次のことをするものとします。
- (i) 認証機関は、認証判定を下したならば直ちに、その生産物のステータスが GLOBALG.A.P.のデータベースにおいて「認証済み」に更新される前に認証書が発行されないことを確実にする。
 - (ii) 制裁が発効されたならば直ちに、GLOBALG.A.P.のデータベース上の生産者の関連するステータスが変更されることを確実にする（制裁の発効からデータベースの更新までの時間は、1 営業日を超えないものとする）。
 - (iii) GLOBALG.A.P.のデータベース上の生産者のステータスが最新のものであることを保証するために、その他のすべての生産者のステータスが問題なく更新されることを確実にする。
 - (iv) それぞれの認証の詳細と同様に、すべての監査および検査の詳細（抜き打ち検査および監査のものを含む）に関して、すぐにアクセスできる情報が利用できることを確実にする。

3.4 認証機関の独立性、公平性、機密性、および高潔性

- a) ISO/IEC 17065 に従って、GLOBALG.A.P.承認済みの認証機関は、利害の衝突を引き起こす可能性のある活動の分離を確実にする体制でなければなりません。すべての認証機関の人員は、高いレベルの専門家としての高潔性をもって活動し、その判断に影響を与えるかも知れない、営利的、金銭的、あるいはその他の圧力から自由であるものとします。また評価活動中に、いかなる物品あるいはサービスの勧誘をすることも明確に禁止しています。
- b) 認証機関は、同じ検査員が 4 年連続で同じオプション 1 の生産者を検査することがないように手順を踏まなければなりません（事前通知のある検査/監査かどうかに関係なく）。オプション 2 では、同じグループの QMS 監査を 4 年以上連続で同じ監査員が行うことのないよう、監査チームの中で監査員をローテーションさせることとします。ただし、監査チームの中の検査員は同じでも構いません。
- c) **機密性:** 生産物およびプロセスの詳細、評価報告書、および関連文書を含む、申請者である生産者に関連する情報は、（法律で特に要求されない限り）機密として扱うものとします。一般規則または「GLOBALG.A.P.サブライセンスおよび認証契約」において別途記載がない限り、申請者である生産者の事前の同意なしに第三者に対して情報を公開することはできません。
- d) 認証機関は組織内のすべてのレベルにおいて賄賂や汚職を防ぐ手段と手順を確立しなければなりません。

4 生産者登録および受理

GLOBALG.A.P.認証を与える手順は、認証機関の運用文書に明確に示されなければならない、また GLOBALG.A.P.の一般規則に従うものとします。

4.1 一般事項

- a) 認証するすべての生産サイトは、GLOBALG.A.P.のデータベースに登録されるものとし（利用可能な場合）。
- b) 生産物の範囲は、その生産物が生産される場所に関連付けられます。登録されていない場所で生産された生産物は認証することができません。同様に、登録された場所で生産された生産物であっても、登録されていない生産物は認証することができません。
- c) 生産者または生産者グループだけが、GLOBALG.A.P.認証に生産プロセスを登録申請することができます。
- d) 認証書およびサブライセンスは、生産物と、生産物が生産される（場合によっては包装、取扱がされる）生産サイトについて、登録された生産者に対し発行されます。
- e) 法律上の認証保持者（つまり、認証書に記載される法人）だけが、GLOBALG.A.P.認証品を市場に出すことができます。生産者グループのメンバーは法律上の認証保持者ではありません。したがって、生産者グループは、グループ認証に関連する生産物を、個々のメンバーの名前で認証品として市場に出すことはできません。非認証品として販売されるすべての生産物は、グループのマスバランスシステムに記録されるものとしします。

4.2 生産者の登録

- a) 認証機関および生産者は、「通知サービス規約」に同意するものとしします。それには、認証機関が GLOBALG.A.P.のデータベースから生産者固有の GLOBALG.A.P.番号（GGN）を受け取った後 28 暦日以内に（最初の）登録のための正式な申請の受理を確認するという、認証機関による約束を含むものとしします。
- b) 各認証機関は詳細な料金体系を設定し、見込み客に対してそれを説明します。なお、関連する GLOBALG.A.P.の手数料は明記すべきです。生産者/生産者グループに対して発行される各認証機関の請求書またはその付属文書には、GLOBALG.A.P.の登録料を明記するものとしします。
- c) 認証機関は、関連する GLOBALG.A.P.の検査および認証の料金を支払えば認証の発行を保証するわけではないことを、見込み客に対して説明するものとしします。
- d) 事前に GGN を持っている生産者または生産者グループが登録を申請した場合、認証機関は、下記のセクション 7 に定められた GLOBALG.A.P.の認証機関移行手順に沿って手続きをするものとしします。
- e) 生産者または生産者グループが新しい認証機関への変更を希望する場合、受け入れ側の認証機関は、すべての申請者のための最初の手順として、あらゆる手続きの前に、GLOBALG.A.P.データベースを検索し、そのステータスを確認するものとしします。
- f) 生産者または生産者グループが 2 つ以上の認証機関のサービスを利用する場合、各認証機関はそれぞれの検査（オプション 1）および QMS 監査（オプション 1 QMS を伴うマルチサイト、またはオプション 2）を独立して行うものとしします。
 - (i) 認証機関のうちの 1 つが制裁を出す場合、その生産者または生産者グループに関係するすべての認証機関には、スコープ、および必要な場合、すべての認証機関で横断的に取られる措置の詳細に関して、互いに連絡を取る義務があります。

- (ii) 生産者または生産者グループには、関係するすべての認証機関に対して制裁の報告をする義務があります。ただし、関係する認証機関に対して GLOBALG.A.P.から直接連絡することもあります。
 - (iii) 認証機関間の連絡はすべての関連情報を含んでいなければなりません。出された制裁が有効であることを関係するすべての認証機関が監視するものとします。
- g) 認証機関は、生産サイトまたは生産物分野の変更、および生産者グループ内のメンバーの追加/削除など、承認済みの生産者の最新情報を収集するための手順を定め、実施するものとします。

4.2.1 登録データの要求事項

認証機関は、以下のことを実施するものとします。

- a) 登録手続きにおいて、一般規則パート I、別紙 I.2「GLOBALG.A.P.登録データ要求事項」で要求されるすべての情報を記録する。
- b) 生産者グループの QMS によって承認され、生産者グループの内部登録簿に含まれるすべての生産者メンバーが、「一般規則パート I」別紙 I.2 の要求事項に従って GLOBALG.A.P.のデータベースに個々に登録されることを確実にします。なお、常に最新情報が維持されなければなりません。
- c) GLOBALG.A.P.のデータベース wiki (wiki.globalgap.org) に記載されているとおり、適宜 GLOBALG.A.P.データベースを更新し維持します。この情報は、変更があれば都度、更新されるものとします。それは、遅くとも、次の認証書のサイクルおよび/または再認証のための生産物の再受理と同時に更新されるものとします。

4.2.2 データ・アクセスの規則

- a) 認証機関は、ウェブサイト上で入手可能な「データ・アクセス規則」の文書について生産者または生産者グループに通知し、説明するものとします。
- b) 認証機関は、「データ・アクセス規則」の文書に変更があった場合、関係する生産者または生産者グループに通知し、説明するものとします。
- c) データ・アクセス権は、認証機関への登録手続き中に、生産者/生産者グループによって定められ、署名されるものとします。データ所有者は、データ・アクセス権のレベルの付与および決定について責任があります。ただし、データ所有者は、その他のユーザー（例えば、認証機関）にその責任を移譲することができます。
- d) **データ保護**：前述の通り、GLOBALG.A.P.システムの枠組みの中では、システムに対して権限を与えられた者（例えば、生産者、認証機関、GLOBALG.A.P.、市場参加者、一般の人々など）だけが、データを閲覧することができます。さらに、生産者は自身が承認した取引先に個人データを開示する、あるいはそれを第三者に依頼することができます。この閲覧権限はオンラインでいつでも無効にすることができます。それ以降の生産者の個人データへのアクセスは違法であり、ドイツ連邦データ保護法に従ってデータベースの管理者によって阻止されます。ウェブサイト (www.globalgap.org) 上に公開されている「データ・アクセス規則」を参照。
- e) GLOBALG.A.P.は、最低 5 年間、データベースに申請者/生産者の認証履歴を保管します。

5 評価プロセス

5.1 オプション 1 生産者

5.1.1 一般規則パート I のセクション 5.1 を参照。

5.2 事前通知検査

- (i) 認証機関は、事前通知検査をオフサイト・モジュールおよびオンサイト・モジュールの 2 つのモジュールに分割することができます。両方のモジュールは、同じ監査員/検査員によって行われなければなりません。
- (ii) オフサイト評価方法は、それを実行する前に認証機関によって検証されていなければならず、年 1 回のマネジメントレビューの一部に含まれなければなりません。
- (iii) オフサイト検査は、オンサイト検査の 4 週間以上前に行なってはなりません。オフサイト検査は、オンサイト検査に先立って、生産者から認証機関に送付された文書を机上で評価します。認証機関は、生産者がオフサイト検査に使用する文書を提出する締切日を設けるものとします。その日付が、オンサイト検査を行うまでの 28 日間の計算の起点になります。
- (iv) 認証機関がオフサイトで評価できる文書には、以下のものが含まれます。自己評価、「食品安全方針声明書」、リスク評価、いくつかの CPCC の中で要求される手順、獣医療計画、分析プログラム（頻度、パラメーター、場所）、分析報告書、資格、使用薬品リスト、使用農薬リスト、試験所認定の証拠、外部委託される作業の認証書または検査報告書、ならびに農薬/肥料/薬品の使用記録。
- (v) 管理点のオフサイト評価は、十分なコメントを検査チェックリストの該当する管理点に書き残さなければなりません。コメントは、すべての上位の義務、およびすべての不適合項目、ならびに適用除外とした下位の義務の管理点に付記されるものとします。ただし、「検査方法の指針」が利用できる場合は、そこで別途指示された内容に従います。
- (vi) 各検査のオフサイト・モジュールおよびオンサイト・モジュールの日付、時間、および期間は、検査員によって記録され、被験者によって署名されるものとします。
- (vii) オンサイト・モジュールは、生産者が提出した文書の技術的な評価（オフサイト評価）の後に行われます。オンサイト検査では、オフサイト検査で得た情報、および生産工程が現場でどのように稼働しているかを検証し、オフサイト検査で評価されなかった残りのチェックリストの内容を検査します。
- (viii) 評価プロセス全体（オフサイトおよびオンサイト・モジュール）を通じて不順守が見つかった場合には、それらを解決する期限はオンサイト検査のクロージングミーティングを起点に算出されます。
- (ix) このしくみは検査期間全体を短縮するものではありませんが（スコープ特定規則における検査期間に関する要求事項を参照）、オンサイトでの時間をより効率的に使用することができます。オンサイト・モジュールの時間は、2 時間以上でなければなりません。

5.3 抜き打ち緩和プログラム

- (i) 抜き打ち緩和プログラムは、すべての生産者に提供されることとします。
- (ii) 抜き打ち検査とは次のとおりです。認証機関は、訪問に先立って生産者に通知することができますが、通常 48 時間（2 営業日）よりも前に通知されることはありません。

認証機関から提示された日付を生産者が受け入れることが不可能（健康上の、またはその他の正当な理由のために）な事例においては例外的に、生産者は抜き打ち検査を通知される機会をさらに 1 回を得るものとします。最初の提示日付を受け入れない場合、生産者は書面による警告を受け取るものとします。生産者には、48 時間前の訪問通知が別途送付されます。正当と認められない理由のために訪問ができない場合、すべての生産物の認証が一時停止され、生産者のステータスは 0 年にリセットされます。（一般規則パート I の 5.1.2.3「抜き打ち緩和プログラム」を参照）

5.4 オプション 2 の生産者グループおよびオプション 1 の QMS を伴うマルチサイト

5.4.1 オプション 2 の生産者グループおよびオプション 1 のマルチサイト（実施済みの QMS あり）の外部の QMS 監査

- a) 評価プロセスは、基準への適合を評価し認証するために、構成要素のサンプル抽出を含むものとします。一般規則パート II に記載されているとおり、QMS の構築および管理に関連する、そのグループまたはマルチサイトの組織によって申告されたすべての文書、サイト、要員、および運用が評価されるものとします。
- b) 評価プロセスは、QMS および管理構造が基準を満たしていること、ならびに、生産者/生産サイトの内部の監査および検査が GLOBALG.A.P.スキームの要求事項を満たしていることについて、確認することを目的としています。
- c) 評価プロセスは 2 つの要素に分けられます。
 - (i) QMS の監査
 - (ii) 登録された生産者/生産・取り扱いサイトのサンプル抽出検査（一般規則パート I、5.2 項を参照）
- d) 認証機関は、監査に先立って申請者の幹部に監査計画を送付するものとします。
- e) QMS 監査は、生産者グループまたはマルチサイト企業を中心とする事務所/管理センター、ならびに中心となる農産物取り扱い施設で行われるものとします。
- f) 一般規則パート II に含まれる要求事項の評価プロセスは、生産者グループ/マルチサイト企業の規模に応じて、少なくとも 6 時間から 8 時間をかけるものとし、以下のことを含むものとします。
 - (i) 経営幹部とのオープニングミーティング
 - (ii) すべての関連文書のレビュー
 - (iii) 記録の評価
 - (iv) 行われた内部監査および検査のレビュー
 - (v) マスバランスチェックのレビュー
 - (vi) 主要なスタッフとの話し合い/インタビュー
 - (vii) 特定された不順守および不適合のレビューを含むクロージングミーティング
- g) すべての内部検査員および監査員の資格の評価は、初回の認証の前に実施されるものとします。後続の監査では、認証機関は、新しい検査員および監査員の要件および資格を毎年再評価しなければなりません。なお、前のシーズンにチェックしたファイルを再評価することもあります。
- h) QMS 監査の一部として、内部監査・検査と外部監査・検査の結果を比較して、内部統制が適切かどうかを評価するものとします。

- i) QMS および生産者メンバー/生産サイトの最低限のサンプルの両方が評価されなければ、最終報告および結果を完成させることはできません。

5.4.1.1 オフサイト・モジュール

- (i) 認証機関は、事前通知監査をオフサイト・モジュールとオンサイト・モジュールの 2 つのモジュールに分割することができます。両方のモジュールは、同じ監査員によって行われなければなりません。
- (ii) オフサイト評価方法は、それを実行する前に認証機関によって検証されるものとし、年 1 回のマネジメントレビューの一部をなすものとします。
- (iii) オフサイト・モジュールの検査は、オンサイト・モジュールの前の 4 週間以内に行なわれるものとし、その検査は、監査の前に QMS によって認証機関に送付された文書の机上レビューから成り立っています。認証機関は、生産者がオフサイト検査に使用する文書を提出する締切日を設けるものとし、その日付が、オンサイト検査を行うまでの 28 日間の計算の起点になります。
- (iv) 認証機関がオフサイトで評価できる文書には、次のものが含まれます。内部監査、承認された生産者メンバー/生産サイトの内部登録簿、「食品安全方針声明書」、リスク評価、一般規則パート II において要求される手順、残留農薬検査ルール（頻度、検査項目と基準値、サンプル抽出方法）、残留分析報告書、資格、使用される薬剤・農薬のリスト、試験所認定の証拠および認証書、あるいは外部委託業務の検査報告書。
- (v) オフサイトでの QMS の要求事項の評価は、レビューした証拠に関する十分なコメントを QMS チェックリストに記録するものとします。
- (vi) 各監査のオフサイトおよびオンサイトのモジュールの日付、時間、および検査期間は、監査員によって記録されるものとします。
- (vii) オンサイト・モジュールは、QMS 文書の技術的なレビューの後に行われます。オンサイトでは、オフサイトで得た情報、およびマネジメントシステムが現場でどのように機能しているか（例えば、内部検査、トレーサビリティ、区分管理およびマスバランス、中心となる農産物取り扱い単位など）を検証し、オフサイトで評価されなかった残りのチェックリストの内容を監査します。
- (viii) 評価プロセス全体（オフサイトおよびオンサイト・モジュール）を通じて不順守が見つかった場合には、それらを解決する期限はオンサイトのクロージングミーティングを起点に算出されます。
- (ix) このしくみは監査期間全体（5.4.1 の f) 項の監査期間に関する要求事項を参照）を短縮するものではありませんが、オンサイトでの時間をより効率的に使用することができます。オンサイト・モジュールの時間は、3 時間以上でなければなりません。

5.4.2 生産者グループ・メンバーおよび/または生産サイトの外部検査

5.4.2.1 年次検査:

- a) 検査する生産者/サイトの最終的な選択および QMS への連絡は、通常、そのグループ/企業の体制に基づき、サンプリング手順で定められた基準を使用して、QMS 監査（オフサイトおよびオンサイトのモジュールの両方）の後にリスクベースで実施されるものとし、通常、それぞれの生産者に 48 時間（2 営業日）よりも前に通知されることはありません。

- b) 認証機関は、正当な基準に基づいて、登録された生産者/生産サイトの総数に対する検証率を高めることができます。生産者のグループ/企業には、そのような決定を求める権利があります。検証件数の追加は、以下のいずれかの理由から生じる可能性があります。
- (i) 生産者メンバーの適合に影響する重要な QMS および/または生産物取り扱いの要求事項の不履行
 - (ii) 顧客の苦情、例えば、違法な残留農薬の検出
 - (iii) 内部の監査/検査の報告書と認証機関の検査/監査の指摘との間の著しい不一致
 - (iv) 不適合が構造的か否かを判断する必要性の発生
 - (v) 生産物の数
- c) 生産者は、それぞれのサブスコープ内で、生産の種類によって分類されるものとしします。生産の種類には以下のようなものがありますが、これらの例に限定されません。
- (i) 施設内で飼育する家畜
 - (ii) 野外の家畜または農作物
 - (iii) 施設/被覆作物
 - (iv) 多年生作物
 - (v) 淡水に生息するもの（水産養殖）
 - (vi) 海洋生物（水産養殖）

例 1a: 生産者グループ（合計で 64 戸）が GLOBALG.A.P.の乳製品の検査を受けており、また、すべての生産が露地で行われている場合、すべての生産者の平方根（8）がサンプル数です。

例 1b: ただし、グループの 64 戸の生産者のうち 16 戸が施設内で乳製品を生産している場合、このグループには異なる生産の種類があると見なされ、小グループの生産者の平方根（4）についても検査されます。48 戸（64 - 16）の平方根（7）および 16 戸の平方根（4）の和、すなわち $7 + 4 = 11$ となり、合計 11 戸の生産者が検査されるということになります。

例 2: 1 つのグループが、GLOBALG.A.P.認証の青果物サブスコープの下に合計 96 戸の生産者を登録しています。96 戸の生産者の内訳は以下のとおりです。

- 43 戸がリンゴを生産
- 10 戸がリンゴおよび施設でトマトを生産
- 5 戸がリンゴおよび施設でトマトを生産し、露地でもトマトを生産
- 残りの生産者は、露地でニンジンを生産（38 戸の生産者）

以上をまとめると、以下のとおりです。

- 58 戸の生産者が多年生作物（リンゴ）を生産
 - 15 戸の生産者が施設で作物（温室トマト）を生産
 - 43 戸の生産者が露地で作物（トマトおよびニンジン）を生産
- したがって、サンプルは、以下のとおりです。
- $\sqrt{58}$ = リンゴを生産している生産者 8 戸
 - $\sqrt{15}$ = 施設でトマトを生産している生産者 4 戸
 - $\sqrt{43}$ = 露地で農作物を生産している生産者 7 戸

検査期間中に認証機関が、リンゴも、施設のトマトも、露地のニンジンおよび/またはトマトも栽培している生産者を選択した場合、検査員は 3 つの異なる生産の種類を同時に検査対象としています。

- d) 最小サンプル数は、サブスコープおよび生産の種類ごとに、登録された生産者の平方根です。整数にならない場合、切り上げられます。選ばれた生産者/サイトのそれぞれの検査中に、すべての生産物が検査されるものとします。
- e) 生産者のサンプル抽出は、リスク要因、新しい生産者、および無作為な選択を考慮しつつ、数年間の中で生産者グループ/企業のすべての生産者メンバー/サイトを網羅することを目指すものとします。特別な理由（より高いリスク、メンバーの特別なステータス、生産物の数、前回の検査結果、マルチサイト・メンバーなど）がない限り、後続の評価は、通常、前回の評価中に既にサンプル抽出された生産者/サイトを含まないものとします。あるグループから別のグループに移る生産者は、認証機関によって選ばれる生産者のサンプルに含まれている可能性が高くなります。

例 1: ある申請者には 4 か所の登録済みの生産サイトがあり、また認証機関は QMS 監査の後に、サンプルとして平方根を抽出します。したがって、2 か所のサイト ($\sqrt{4}$) が、初回検査で検査されるものとします。

例 2: あるグループには合計で 64 戸の生産者がいて、48 戸は牛および羊のサブスコープの認証を取得しようとしており、25 戸は家禽のサブスコープの認証を取得しようとしており、また 9 戸は青果物のサブスコープの認証を取得しようとしています。認証機関によって外部検査される生産者の、各サブスコープを含む最小サンプル数は、 $\sqrt{48} + \sqrt{25} + \sqrt{9} = 7 + 5 + 3 = 15$ 戸になります。

- f) サンプルの中から選ばれた生産者の検査範囲は漏れがないものとします。これは、以下の事項を網羅するものとします。
- 栽培され、認証に登録されているすべての生産物
 - すべての生産の種類 (d)項を参照)
 - 登録されているすべてのサブスコープ

2 つ以上の生産の種類またはサブスコープをもつメンバー/サイトで実施される検査は、それぞれのサブスコープまたは生産の種類ごとに 1 回の検査としてカウントされます。

例 1: 生産の種類が複数ある場合:

ある生産者グループには、53 戸のトマト生産者がいます。28 戸は施設だけで栽培し、17 戸は露地だけで栽培し、8 戸は施設および露地の両方で栽培します。

サンプルの最小数は、以下のとおりです。

- 露地: $17 + 8 = 25 \Rightarrow \sqrt{} = 5$ (生産者の最小数)
- 施設: $28 + 8 = 36 \Rightarrow \sqrt{} = 6$ (生産者の最小数)

ただし、全体での最小生産者数: $8(\sqrt{53})$

重要: f) 項で述べられている、検査する生産者の選定基準は常に考慮されなければならない。

- g) 生産者メンバーが QMS でマルチサイトを運用する場合、グループの QMS は 1 つしか存在できないため、グループの中央 QMS と統合されます。グループ状況のマルチサイトの場合、サイトの数ではなくサンプルサイズを計算するために、サイトを持つ生産者メンバーが考慮されるものとします。CB は、

そのメンバーがサンプルの一部として選ばれている場合、外部監査中にそのメンバーのサイトの平方根を検査するものとします。ただし、内部検査中は、生産者メンバーのすべてのサイトを検査する必要があります。

例：25 戸のメンバーのグループにおいて、1 戸のメンバーが複数のサイト（4）を持つメンバーとして分類される場合、認証機関は 5 戸のメンバー（25 の平方根）を検査するものとします。マルチサイト・メンバーが 5 戸のメンバーのうちの 1 戸に選ばれた場合、そのサイトのうちの 2 か所（4 の平方根）が検査されます。そのグループは合計で 6 か所のサイトが検査されます。

5.4.2.2 オプション2の生産者および/またはオプション1マルチサイト内の生産サイトのサーベイランス検査:

- a) 年次の検査およびサーベイランス検査は 2 回の訪問によって別々に実施され、互いに最低 30 日以上離れているものとします。
- b) 検査する生産者/サイトの最終的な選択および QMS への連絡は、通常、生産者ごとに 48 時間（2 営業日）よりも前に実施しないものとします。

5.5 抜き打ち検査（オプション 1 のみ）および監査（QMS のみ）

- a) 10%の選択は、総数を考慮するだけではなく、リスク評価に基づき、地理、法令（その認証機関が複数の管轄区域を対象としている場合）、農作物の種類、適合履歴などの要因にも配慮して計算され、実施されるものとします。
- b) 10%は 12 か月間で計算されるものとします。12 か月間ごとの抜き打ち検査および監査の数は、前年に、QMS を伴わずに発行された認証件数、および QMS を伴って発行された証明件数のそれぞれ 10% を反映するものとします。
- c) 10%は、認証機関が認証の保有者を有している国々に分配されなければならない、また、それは各国を代表するものとします。
- d) 10%の計算はスコープごとに行なわれるものとします。
- e) スコープあたり、最低 1 年に 1 回の検査または監査があるものとします。つまり、その認証機関のオプション 1 の認証済み生産者が 10 戸以下である場合、少なくとも 1 戸の生産者が検査されなければならない、および/またはその認証機関のオプション 2 の認証保有者が 10 件以下である場合、少なくとも 1 戸は毎年監査されるものとします。
- f) オプション 2 の認証済み生産者グループが 1 つしかない認証機関は、少なくとも 2 年に 1 回、抜き打ち QMS 監査を実施するものとします。
- g) 各プログラムでの評価の件数も、1 年あたりの抜き打ち検査または監査の数に加算することができます。認証機関は、認証高潔性プログラムの評価で見つかった不順守のフォローアップを実施するものとします。
- h) 毎年の定期検査/監査および抜き打ち検査/監査は、2 回の訪問によって別々に実施され、互いに最低 30 日以上離れているものとします。

5.6 生産物取り扱い単位の検査（オプション 2 およびオプション 1 の QMS を伴うマルチサイト）

- a) 認証機関は、GLOBALG.A.P.が提供する QMS と生産物取り扱いを組み合わせたチェックリストを使用して、中心となる生産物取り扱い単位を検査するものとします（つまり、生産者グループメンバー/生産サイトあたりにすると 1 ヶ所未満）。ただし、水産養殖では、生産物取り扱い単位のサンプル抽出はできません。
- b) 生産物取り扱いが中央で行われず、各生産者メンバーの生産サイトで行われる場合、この要因は検査されるべき生産者のサンプルを決定する際に考慮されるものとします。この場合には、認証機関は、検査を受ける生産者ごとに通常の IFA チェックリストを使用するものとします。
- c) 内部検査においては、すべての生産物取り扱い単位が検査されるものとします。

5.7 承認済みの修正チェックリスト（AMC）/同等なスキームの外部検査および監査

- a) **ベンチマーキング:** ベンチマーキングを適用するスキームは、内容および出来映え基準を GLOBALG.A.P.と比較することによって、同等性について評価されます。より詳細については、「ベンチマーキング規制」を参照してください。
- b) **スキーム規則:** AMC（承認済みの修正チェックリスト）の場合、GLOBALG.A.P.の一般規則が適用されます。同等なスキームについては、対応するスキームの一般規則を参照してください。
- c) **ベンチマークの検証:** 個別の生産者/生産者グループは、一旦認証を受けると認証保有者になります。認証を有効化するために、すべての法人は GLOBALG.A.P.のデータベースに登録されるものとします。
- d) **GLOBALG.A.P.承認済みの認証機関:** 完全にベンチマークされた基準の範囲内で実施されるすべての認証は、GLOBALG.A.P.または対応するスキームオーナーによって承認された認証機関によって実施されるものとします。
- e) **頻度:** 適用スキームは、オプション 1 の規則に従って生産者の、またオプション 2 の規則に従って QMS を伴う生産者グループ/マルチサイトの検証を実施することを確実にするものとします。

6 認証プロセス

6.1 一般事項

- a) 認証判定を下す人、または認証機関の認証委員会の少なくとも 1 人のメンバーは、認証を発行するスコープについて、別紙Ⅲ.2 に定められている監査員資格を満たすものとします。認証判定がオプション 1 で QMS を伴わない場合でも、認証機関は、監査員の資格を満たしている認証判定委員会のメンバー 1 人を有する必要があります。ただしこの者は、対面式の QMS 監査員トレーニングに参加し合格している必要はなく、マネジメント・システム監査の 10 日間の実務経験を有する必要もありません。
- b) 各認証機関は、保存された情報について責任を負うものとします。 GLOBALG.A.P.の手順または GLOBALG.A.P.の顧客に関連する文書は、要求に応じて、認定機関および GLOBALG.A.P.が利用できるようになっているものとします。
- c) オプション 1 の QMS を伴わないマルチサイトの場合には、認証が発行される前に、登録された生産物を生産するすべての生産サイトが検査されるものとします（そうでない場合、並行生産となります）。

オプション 1 の QMS を伴うマルチサイトの場合には、新しいサイトを追加するための規則が、一般規則パートⅡの 11「追加の生産者または生産サイトの認証への登録」で説明されています。

- d) 評価プロセスが完全に完了すると、完全な報告書が作成されます。その中では行われた評価活動（検査日、検査されたサイトおよび施設、および検査/監査の期間）を要約し、生産者または生産者グループが基準の要求事項にどのように適合しているかについての客観的な証拠と情報を提供し、また該当する場合には、特定されたあらゆる不適合および/または不順守のリストを含みます。
- e) 検査および監査の両方について、生産者/生産者グループの代表者は、クロージングミーティングにおいて報告書（少なくとも検査/監査のスコップ、管理点のレベル毎の適合の%、指摘のリスト、および期間を含む）に署名または確認をしなければなりません。生産者による書面または電子での確認は、その生産者の「署名」と同等とみなします。
- f) 適合状況は、「はい」（適合の場合）、「いいえ」（不適合の場合）、および「適用除外」（適用除外の場合）で示されます。「適用除外禁止」と示されている管理点は、「適用除外」として評価することはできません。例外的に管理点が適用されない場合には、評価は明確な正当性をもって「はい」とするものとします。
- g) 事後に監査証拠をレビューできるようにするために、「検査方法および正当化ガイドライン」に従ってコメントを記録しなければならない、また検査中に確認した証拠の詳細を含むものとします。対象のサブスコップまたは基準についての公表された「検査方法および正当化ガイドライン」がない場合、（認証機関による）外部検査/監査で確認されたすべての上位の管理点と QMS の管理点、すべての不適合および適用除外の下位の管理点に対してコメントを付けることは義務です。自己評価（オプション 1）の場合も、すべての不適合および適用除外の上位の義務および下位の義務の管理点および適合基準について、コメントを付けることは義務です。サンプル抽出した文書やインタビューした作業者といったコメントおよび証拠は、サイトおよび生産物に特有のものでなければなりません。それらは、すべての管理点がすべての該当するサイトおよび生産物について適切に評価されたことを確実にするために、チェックリストに含まれているものとします。
- h) QMS を伴う生産者グループおよびマルチサイト生産者の場合、評価報告書の書式は QMS チェックリスト（www.globalgap.org において入手可能）に基づくものとします。評価報告書は、グループに対する認証の付与決定の基礎を形作るものです。
- i) 認証機関の報告書は以下の内容を含むものとします；
 - (i) 公式な GLOBALG.A.P. チェックリストの「検査のコメント」のセクションに挙げられているすべての項目
 - (ii) 検査/監査の範囲：会社名、サイト、生産物取り扱い単位、別紙 I.2 生産物の分類に従った生産物の情報、生産面積/生産量、サイト/メンバー、販売先国、取り扱いと収穫を含むか含まないか、生産物取扱いは圃場で行われるか施設で行われるか、あるいはその両方か、種親や種苗の購入はあるか、生産物の特性（並行生産/並行所有、施設か露地か、初回収穫か二回目以降か）などが含まれなければなりません。
 - (iii) 適用される上位の義務、下位の義務、推奨事項の総数の計算と、下位の義務の不適合数の%
 - (iv) 不適合、および不順守とフォローアップ活動のリスト。これには関連する管理点、何が不適合/不順守だったのかという観察内容、要求事項を満たしていないという証拠、是正措置の期限、生

産者による是正措置の内容、是正措置の実践を示す客観的な証拠についての言及、是正措置の評価結果（未解決か完了か）、これらの是正措置に関する日付を含むものとします。

- (v) 適合か否かの結論
- (vi) 認証者/査読者の名前
- j) 報告書の段階、例えば、下書き、最終版、あるいは他にも認証機関が異なる報告書の段階を設けることができます。完成した検査/監査チェックリストは、全ての適用される管理点を含み、（要求される場合には）各管理点に対してコメント/正当性が記載され、是正措置の実践の客観的な証拠が見られるようになっていなければなりません。それらは必ずしも最終報告書の一部である必要はありませんが、要求に応じて閲覧できなければなりません。
- k) 認証の決定をした日付は、認証機関の他の場所/システムに記録されていれば、必ずしも報告書に記載されている必要はありません。
- l) 報告書のコピー、是正措置の実践の客観的な証拠、完成した検査/監査チェックリストは、申請者が書面によって承認している場合のみ、適用される国内法令および認定機関、認証機関に従って、規制当局を除き、要求された場合にはその他の関係者に提供されるものとします。CB レポート（監査レポート、是正措置レポートなど）は、配布前に不正な変更または改ざんがなされることを防止するため、保護され、またはその他の方法で管理されていなければなりません。

6.2 検査期間

- a) 検査報告書は、検査期間の記録を含むものとします。
- b) 十分な検査期間があることによって、監査員/検査員は農場の経営陣とのオープニングミーティングの開催（スコープなどの再確認）、該当するすべての管理点の検査、検査対象スコープのすべての生産物の検査、すべての生産、保管、加工、およびその他の重要な場所（例えば、給水源）の訪問、使用機械の検査、従業員へのインタビュー、記録の評価、十分なコメント含むチェックリストの完成、検査終了後の生産者への速やかな結果の提示が可能になります。
- c) 最も短い検査期間に関する追加の要求事項および指針は、それぞれのスコープ特定規則に記載されています。

6.2.1 抜き打ち検査（QMS を伴わないオプション 1）：

- a) 抜き打ち検査（オプション 1）の期間は、2 時間以上とします。
- b) 利用可能な場合、認証機関は抜き打ち検査用のチェックリストをしようすることができます。

6.3 生産者の不順守および制裁

一般規則パート I の 6.4「制裁」も参照のこと。

- a) すべての訂正および是正措置が評価されるものとします。取られた措置および提供された証拠が不順守を解決するために十分であるかどうかを示す説明を含みます。
- b) 不順守を解決したという証拠は、適宜書類および/または写真で提示することができます。証拠はファイリングされ、GLOBALG.A.P. が要求に応じて利用可能になっているものとします。

- c) 不順守を解決したという証明がサイトの追加訪問でしか確認できない場合があります。追加訪問が必要な場合、費用が発生する可能性があります。
- d) QMS のすべての不順守は、認証が発行される前に解決されるものとします。
- e) 生産者および/または生産サイト段階で、承認レベルに達する十分な是正措置が完了した後、グループまたは企業に対して認証書が発行されるものとします。
- f) 制裁の持越し:、不順守が解決するまでの間は、制裁は認証サイクルにあわせて終了せず、GGN に紐づいて残り続けます。

6.3.1 未解決の不順守

「未解決の不順守」のステータスは、生産者グループ・メンバーの生産物に与えることができません。

6.4 紙の認証書の要求事項

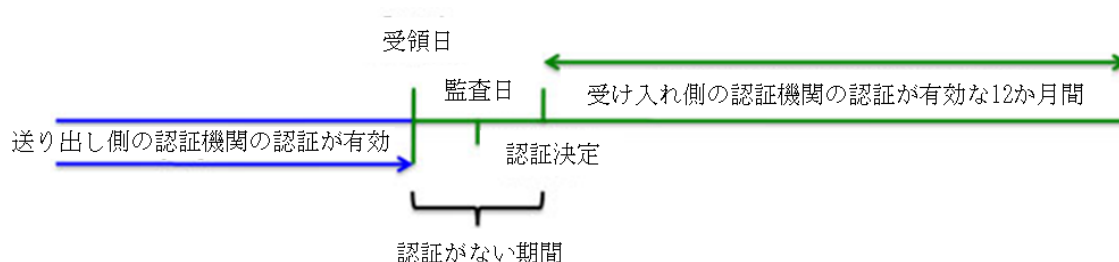
- a) 認証合格判定の後、認証機関は GLOBALG.A.P.の認証書テンプレートの最新バージョンに従って認証を発行するものとします。
- b) 紙の認証書は、その時点で、固有の GGN に紐づく GLOBALG.A.P.のデータベース内の入手可能な情報に基づいてのみ、発行することができます。
- c) 認証に関連するすべての生産者、生産サイト、および生産物取り扱い施設のリストは、認証書の別紙として発行されるものとします。認証機関は、このリストを最新の状態に維持するものとします。
- d) それが認証書でないことが明らかで、次の文面を含んでいる場合に限り、GLOBALG.A.P.の認証機関または外部委託業者は、生産者のステータスに関連する通達文書（登録済み、監査済みなど）を発行することができます：この生産者の実際の GLOBALG.A.P. のステータスは、いつでも www.globalgap.org/search で確認できます。

7 認証機関の移行

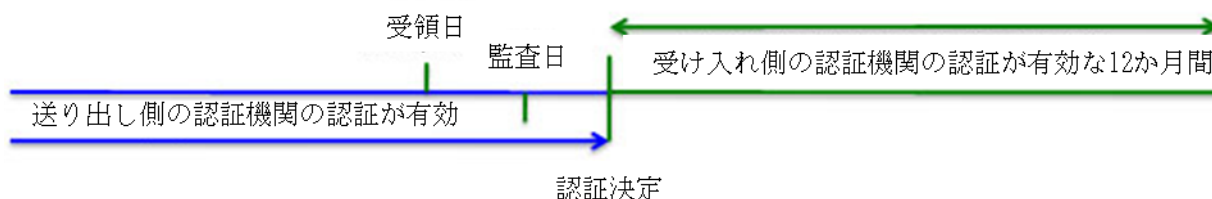
- a) ここでは、GLOBALG.A.P.データベースに登録されている生産者が、元の GLOBALG.A.P.承認済み認証機関（以下、「送り出し側の認証機関」という）から別の GLOBALG.A.P.承認済み認証機関（以下、「受け入れ側の認証機関」という）に変更する場合の手続きの方法について説明します。その目的は、1 つの認証機関によって発行された GLOBALG.A.P.認証の高潔性の維持を保証し、GLOBALG.A.P.の認証機関と契約を結ぶ際に、生産者の GLOBALG.A.P.認証の履歴がレビュー・プロセスにおいて確実に取り扱われるようにすることにあります。
- b) これらのことは、GLOBALG.A.P.に関係する認証機関の間での、GLOBALG.A.P.のデータベース（また該当する場合、関連する認証）に登録されている生産者の移行における最低限の要求事項です。生産者または生産者グループが自由に認証機関を選ぶことができ、不当に、または不公平に束縛されない限り、認証機関はこの文書に含まれているものよりも厳しい手続きや措置を講じることができます。
- c) データベースに登録された生産者および生産者グループだけが、認証機関を変更することができます。すべての生産者は、新しい認証機関に移る前に、まずは未解決の制裁を解決しなければなりません。制裁されている生産者が認証機関の変更を希望し、また認証サイクルが既に期限切れの場合には、例外と

して、送り出し側の認証機関は、是正措置の証拠を受け取ることなく、期限切れの認証の不順守を持ち越しすることができます。ただし、この場合、送り出し側の認証機関は、受け入れ側の認証機関が不順守の原因に完全に把握することを確実にするものとします。

- d) 受け入れ側の認証機関は、移行された生産者または生産者グループの既存の GGN を維持するものとします。二重登録は認められていません。（つまり、同じ生産者または生産者グループが 2 つ以上の認証機関と契約しても、1 つの生産者または生産者グループには 1 つの GGN しかありません）
- e) 受け入れ側の認証機関は、移行を受け入れる前に、生産者/生産者グループとのサブライセンスおよび認証契約の締結を含む登録プロセスを完了しているものとします。認証機関の間の生産者の移行は、生産者または生産者グループの認証の期限が切れており、生産者と送り出し側の認証機関との間に拘束力のあるサービス契約がない場合に行うことができます。
- f) 生産者または生産者グループは、別の認証機関（「受け入れ側の認証機関」）に次のサイクルの認証を申請するものとします。
- g) 送り出し側の認証機関は、発行された認証書の有効期間を短縮することができます。
- h) 「受領日」（「GLOBALG.A.P.サブライセンスおよび認証契約」の日付）および「監査日」が、送り出し側の認証機関の認証有効期限を過ぎている場合、生産者には有効な認証がない期間があります。



- i) ただし、「受領日」（「GLOBALG.A.P.サブライセンスおよび認証契約」の日付）、あるいは「監査日」が送り出し側の認証機関の認証の有効期限よりも前である場合、送り出し側の認証機関の認証の有効期限が切れるとすぐに、受け入れ側の認証機関の認証判定が有効になります。この場合には、その生産者の認証サイクルはそれまでと同じです。
- j) 送り出し側の認証機関は、その認証が期限切れになるまで責任を負い続けます。生産者は、送り出し側の認証機関と契約している間でも、受け入れ側の認証機関と「GLOBALG.A.P.サブライセンスおよび認証契約」を結ぶことができます。一旦送り出し側の認証機関が GLOBALG.A.P.データベースにおいてその生産者の GGN を解除すると、「GLOBALG.A.P.サブライセンス契約および認証契約」は受け入れ側の認証機関に対して拘束力を持ちます。
- k) 送り出し側の認証機関によって発行された認証の有効期間中に、受け入れ側の認証機関が不順守を発見し、28日を過ぎても解決されない場合、受け入れ側の認証機関は、発見された不順守に関して適切なフォローアップ措置を取るよう、送り出し側の認証機関に通知するものとします。



注記 1: 送り出し側の認証機関の認証が期限切れとなった後に、認証判定が行われる場合、「受領日」および「審査日」が有効期限の前であったとしても、生産者が有効な認証を持っていない期間があります。

注記 2: 移行の場合には、データベース内の生産物の登録が検査の前に完了しない、あるいは認証判定が 28 日以内に行われない可能性があります。

8 認証機関の制裁

8.1 一般規則

- a) GLOBALG.A.P.理事会は、ここに記載された制裁の種類およびレベルを定めます。
- b) GLOBALG.A.P.事務局または高潔性サーベイランス委員会（ISC: 下記参照）によって提案された制裁に対する異議申し立ては、制裁通知の受領後 5 営業日以内に受理されるものとします。ISC または GLOBALG.A.P.事務局は異議申し立てを評価します。ISC によって再確認された制裁に対する 2 回目の異議申し立ては、「GLOBALG.A.P.ライセンスおよび認証契約」、ならびに「同等な認証システムのオーナー協定」に記載されている仲裁手続きに従います。
- c) GLOBALG.A.P.は高潔性サーベイランス委員会（ISC）を設立しており、個々の状況に応じて、この文書において概説されるとおり制裁を決定します。
- d) ISC は、以下のメンバーによって構成されます。
 - (i) 常任メンバー3人および補欠メンバー2人
 - (ii) ISC の会議に参加する GLOBALG.A.P.事務局の代表者 1 人
 - (iii) 独立したオブザーバーとして参加する認定機関の代表者 1 人
 - (iv) 議決権を持たないが会議に参加する公共部門のオブザーバー 1 人
 - (v) ISC によって招待された、関連する同等なスキームのオーナー組織の代表者 1 人
- e) ISC は、以下の措置を取ることができます。
 - (i) この文書のセクション 9.3 で定義されている制裁を講じること
 - (ii) 認証機関に対する追加の高潔性評価を要求すること
 - (iii) 制裁を受けた認証機関がその評価または再評価のための訪問にかかる費用を支払わなければならないという決定を下すこと。評価のための訪問の料金は、移動時間に関わらず旅費を含み 1 日あたり 1000 ユーロです。評価のための訪問が 3 日を超えて予定される場合、ISC の承認を得るものとします。
 - (iv) 罰金を科すこと
 - (v) 特定の事例の調査および制裁プロセスに直接要した費用の賠償を認証機関に要求すること。なお、GLOBALG.A.P.事務局には、費用の額の立証責任があります。

- (vi) 当該認証機関との契約を取り消すように GLOBALG.A.P.事務局に助言すること
 - (vii) GLOBALG.A.P. 一般規則に従って業務を遂行していない特定の検査員/監査員に対し、GLOBALG.A.P.事務局の代表者の前でオンライン試験を再度受けることを要求すること。認証機関は、追加の試験料およびその他の経費を負担するものとします。
 - (viii) 特定の検査員/監査員に対し、GLOBALG.A.P.承認済みのトレーニング・コースへの参加を要求すること。認証機関は、参加料、試験料、およびその他の経費を負担するものとします。
 - (ix) ISC は、1 つ以上の高潔性評価の結果に基づいて、認証機関の検査員/監査員を直接資格停止にし、GLOBALG.A.P.システムのいかなる検査/監査も実施禁止にすることができます。
- f) 基本的に、制裁は認証機関全体に適用可能です。ISC は、制裁を、特定のスコープおよびサブスコープ、あるいは地理的なエリアだけに限定することができます。
 - g) 制裁のステップ 1 から 5（下記セクション 9.3 を参照）は必ずしも連続しません（例えば、ある認証機関がデータベースへの登録が不完全だったために最初の警告を受けた後、認証高潔性プログラムの結果でレッドカードを受け、直ちにステップ 4 に飛ぶことはあり得ます）。
 - h) 制裁は、関連する認定機関、および該当する場合には同等な認定システムのオーナー（ECSO）、または承認済みの修正チェックリスト（AMC）のオーナーに通知されます。
 - i) ある認証機関が認定機関によって一時停止されている、あるいは他の理由でその認定を失っている場合には、その認証機関は新しい認証の発行を認められていません。認証機関によって発行された既存の認証が依然として有効かどうかを判断するために、ISC の決定には一時停止の理由を考慮するものとし、レッドカードを出すことも検討しなければなりません
 - j) 同等な認証システムのオーナーは、GLOBALG.A.P.によって既に開始されているものよりも高度な追加の高潔性評価の実施を GLOBALG.A.P.に要求することができます。GLOBALG.A.P.は、これらの追加評価のための別料金を請求することがあります。

8.2 不順守の種類

2 種類の不順守が、認証機関の制裁につながる可能性があります。

8.2.1 契約上の不順守

契約上の不順守とは、認証機関が GLOBALG.A.P.と結んだ契約に適合していない場合を指します。これには以下のことが含まれますが、これらに限定されません。

- a) GLOBALG.A.P.の認証およびロゴの使用に関して誤解を招くか、または誤った連絡をする
- b) GLOBALG.A.P.事務局が定めた期間の後に、「GLOBALG.A.P.ライセンスおよび認証契約」、ならびにあらゆる改定に署名することへの拒否
- c) GLOBALG.A.P.の料金（例えば、認証機関のライセンス料、トレーニング料、認証ライセンス料、生産者の登録料）のうちのいずれかの支払い不履行
- d) 認証機関の承認過程で、定められた期間内に認定の証拠を提出しない
- e) 不正行為が確認された
- f) 認定の喪失（認定機関の決定に基づく）

8.2.2 基準または一般規則の不順守

- a) 一般規則または基準の不順守とは、認証機関が一般規則に定められている規則に適合していないか、または GLOBALG.A.P.の規則に従った管理点および適合基準を解釈していない場合を指します。そのような不順守の例には、以下のことが含まれていますが、これらに限定されません。
- (i) 認証機関の必須の年次トレーニングに参加しない
 - (ii) オンライン・トレーニングの要求事項に従っていない
 - (iii) 認証データの不完全なアップロードまたはアップロードの遅延
 - (iv) 登録内容および監査データの信ぴょう性が低い
 - (v) GLOBALG.A.P.の公式の連絡事項、および/または苦情に対する応答がない
 - (vi) 不正行為が確認された
 - (vii) 正当な理由を持って GLOBALG.A.P.事務局に連絡されていないにもかかわらず、承認された国別解釈 (NTWG) ガイドラインを適用していない
 - (viii) 利害の衝突 (例えば、コンサルタント業務および認証業務)
 - (ix) 生産者に対する制裁の遅延または不適用
 - (x) 不適切な内部トレーニング
 - (xi) 外部検査の範囲の不適合
 - (xii) 例えば、是正措置に返答しない、認証の発行遅延など、認証機関の実務上の要求事項および締切に従わない。
- b) GLOBALG.A.P.事務局、関連する認定機関、および GLOBALG.A.P. 高潔性サーベイランス委員会は、これらの種類の不順守への対応に責任を負うものとします。

9 高潔性プログラム - IPRO

高潔性プログラムは次のとおり2つの柱から成り立っています。

- a) ブランド高潔性プログラム (BIPRO) (例えば、契約上の問題、データベース、ロゴの使用、管理上の要求事項、苦情管理など)
- b) 認証高潔性プログラム (CIPRO) (例えば、検査、監査、または認証機関の認証成績など)

制裁手順は文書の最後にあるフローチャートに図解されています。

9.1 ブランド高潔性プログラム

以下の不順守はブランド高潔性プログラムの対照となります。

- a) セクション8.2に定義される不順守。例えば、8.2.2a (vi) 「不正行為が確認された場合」、高潔性サーベイランス委員会には認証機関を直ちに判定することが求められます。
- b) セクション9.3「認証機関の制裁の手順」に定義されているような、度重なるGLOBALG.A.P.のデータベース上での不完全な登録あるいは登録の不備
- c) 認証機関が受領した請求書の未払い。GLOBALG.A.P.事務局からの2回の書面による警告の後、3か月以内に清算されていない場合には、レッド・カードが出され、最終的にステップ5の契約取り消しに至ります。

- d) データベースの入力および/または発行された認証書における不完全さ、または間違い
- e) 認証機関が、最後の制裁またはモニタリングプロセス開始後12か月以内に、閾値（5件のGGN、もしくはその認証機関が登録しているGGNの総数の1%の、どちらか多い方）を越えていない場合には、データベースの入力に関する制裁レベルはリセット（取り消し）されます。

9.2 認証高潔性プログラム

認証高潔性プログラムはリスクに基づいており、また以下の2種類の評価から成り立っています。

- a) 認証機関の認証成績を確認するための事務所評価
- b) 認証機関の検査および監査成績を確認するための生産者評価または認証機関立会い評価

9.2.1 評価結果の考課および等級

- a) それぞれの評価は、認証高潔性プログラムの評価報告書に文書化されます。評価された各サイト（生産者、生産者グループ、あるいは認証機関の事務所）の代表者は、評価報告書に署名するものとします。
- b) 各認証高潔性プログラム評価報告書は、認証機関、認定機関、また該当する場合、同等な認証システムのオーナー/承認済みの修正チェックリストのオーナーに送付されます。認定機関は、報告書の情報を次回の評価に使用することを奨励されています。認証機関および同等な認証システムのオーナー/承認済みの修正チェックリストのオーナーは、自らの管理に対するフィードバックとしてこれらの報告書を継続的改善プロセスに役立てるものとします。
- c) 1つ以上の等級づけされた認証高潔性プログラム評価報告書からの証拠、および認証機関が前回の評価からの改善を示せなかったことについては、GLOBALG.A.P.が高潔性サーベイランス委員会に対して認証機関の全体的な成績の等級を提示するための根拠となります。認証機関は、提示された成績の等級を通知され、受理後14日以内に声明文により返答する機会を与えられるものとします。関連する認定機関、および該当する場合同等な認証システムのオーナー /承認済みの修正チェックリストのオーナーは、GLOBALG.A.P.から通知を受けるものとします。
- d) 高潔性サーベイランス委員会の意思決定は、以下のすべての事項に基づきます。
 - (i) 前回までのすべての評価を踏まえ、GLOBALG.A.P.事務局から提示された個々の評価報告書
 - (ii) GLOBALG.A.P.によって提示された成績の等級
 - (iii) 認証機関の書面による声明（フィードバック）
- e) 高潔性サーベイランス委員会に提出される評価報告書は匿名であり、また関係する認証機関の名前は開示されないものとします。
- f) GLOBALG.A.P.事務局は、フォローアップ方法の要約を要求することがありますが、必ずしもそれぞれの事例に関して是正措置計画を要求するものではありません。
- g) 認証機関の代表者が同席し、評価所見を受理した場合には、高潔性の評価者は、認証機関がこの高潔性評価を10%ルールに基づく抜き打ち検査/監査として、算入可能という決定を下すことができます。
- h) 認証機関は、高潔性評価の所見のフォローアップおよび生産者の認証要件への適合を確実にすることを期待されています。

9.2.1.1 等級

等級#1

(i) 定義

認証機関の全体的な能力を疑うような、許容できない成績：GLOBALG.A.P.または同等な基準の規則に対する重大な違反が観察されます。これらには次の事項の客観的な証拠を含んでいますが、これに限定されません。

- GLOBALG.A.P.または同等な基準の規則に対し、故意に、および/または繰り返しの無視または不注意
- GLOBALG.A.P.または同等な基準のライセンスの誤用
- 検査/監査プロセスにおける1つ以上の重大な技術的手違い
- 検査/監査プロセスにおける多くの軽微な技術的手違い
- 確認された不正行為

(ii) 手順

- a) それが単発の出来事か、あるいは通常の業務手順だったのかを調査するために、追加の評価が計画されることがあります。ただし、1回の評価だけで等級#1と結論付けることもあります。
- b) その認証機関は直ちに高潔性サーベイランス委員会に送られ、農場および認証機関レベルの修正/是正措置をすみやかに実施します。
- c) 認証機関はそれらをGLOBALG.A.P.事務局に対して、また該当する場合、同等な認証システムのオーナー/承認済みの修正チェックリストのオーナーに対して、すみやかに報告します。

等級#2

(i) 定義

- a) 非常に悪い成績。事態は深刻であり、直ちにその認証機関による改善対策を要することが暗示されています。多くの評価において重大な疑念、および懸念が生じています。
- b) 管理を故意に間違った可能性があるものの、不正行為の客観的な証拠は見つかりませんでした。実際の（つまり、潜在的なものだけでなく実際に存在するものも含めた）食品安全上の危険が、検査/監査中に指摘されていませんでした。

(ii) 手順

- a) 認証機関は、農場レベルにおける修正/是正措置を直ちに確認するものとします。
- b) 是正対策の有効性を確認するため、新しい評価（再評価）を最長10か月以内に予定しなければなりません。
- c) 認証機関は高潔性サーベイランス委員会に送られます。
- d) 潜在的な食品安全リスクが認証機関によって指摘されていない場合は、いかなる場合も直ちに高潔性サーベイランス委員会に送られるものとします。

等級#3

(i) 定義

不十分な成績。認証機関は、成績を向上させ、改善対策を実施することを要求されます。多くの評価の

結果においていくつかの懸念が生じています。

(ii) 手順

- a) 是正対策の有効性を検証するため、新しい評価（再評価）を最長15か月以内に予定しなければなりません。
- b) 改善が見られない場合、その認証機関は高潔性サーベイランス委員会に送られるものとします。

等級#4

認証機関の成績は許容できる状態です。組織的で重大な不順守は見つかっていません。検知されたいくつかの事象はプロセスの高潔性に影響を及ぼすものではありません。認証機関は良好な成績を示しています。再評価は特に予定されていませんが、その認証機関も無作為サーベイランス・プログラムの一部には含まれており、追加の高潔性評価を受けることがあります。

等級#5

事象は検知されず、良好な成績です。その認証機関は、GLOBALG.A.P.の要求事項を高いレベルで実践しています。次の評価の予定を立てる上で、その認証機関の優先度は低くなります。ただし、その認証機関も無作為サーベイランス・プログラムの一部としては残り、追加の高潔性評価を受けることがあります。

9.3 認証機関の制裁の手順

- a) 表9.3に定められている制裁は、規則に違反し、不順守（8.2.2に類似）が見られたすべての認証機関に適用されなければなりません。
- b) 罰則は、不順守の深刻さ、または不順守の再発頻度によるものとします。
- c) GLOBALG.A.P.、それぞれの認定機関、および同等な基準のオーナーは、高潔性サーベイランス委員会と緊密に連携するものとします。

表 9.3 認証機関の不適合についての制裁ステップ

	制裁のステップ	意思決定者
ステップ 1	1 回目の警告	GLOBALG.A.P.事務局および/または高潔性サーベイランス委員会 (認定機関へ連絡)
ステップ 2	2 回目の警告	GLOBALG.A.P.事務局および/または高潔性サーベイランス委員会 (認定機関へ連絡)
ステップ 3	イエロー・カード	高潔性サーベイランス委員会 (認定機関へ連絡、および GLOBALG.A.P.のウェブサイトで情報公開)
ステップ 4	レッド・カード	高潔性サーベイランス委員会 (認定機関へ連絡、および GLOBALG.A.P.のウェブサイトで情報公開。 認証機関はさらに通知があるまで新しい認証を（再）発行できません)
ステップ 5	契約取り消し	高潔性サーベイランス委員会による提案 (認定機関への情報、および GLOBALG.A.P.のウェブサイトで情報公開。「GLOBALG.A.P.ライセンスおよび認証契約」の取り消し)

* 注記: 制裁のステップの 1 から 5 は、必ずしも連続していません。

9.3.1 ステップ 1 - 1 回目の警告

- 高潔性サーベイランス委員会またはGLOBALG.A.P.事務局によって決定されます。ブランド高潔性プログラムの不順守によって1回目の警告を出した場合は、高潔性サーベイランス委員会の承認なく2回目の警告を出すことがあります。
- 以下のような場面で、1回目の警告を出すことがあります。
 - 一般規則に定められているような標準的な規則の不順守が検出された場合
 - 認証機関が、GLOBALG.A.P.事務局からの書面による要求に反応しない、または報告しない場合
 - 不完全な、または間違ったデータベース入力および/または発行された認証の数が、GLOBALG.A.P.番号（GGN）で 5 件以上か、あるいはその認証機関に登録された GGN の総数の 1%以上か、いずれかに達した場合
- 認証機関は、高潔性サーベイランス委員会が提示した再評価日数の料金の一部または全部を支払うものとしてします。

9.3.2 ステップ 2 - 2 回目の警告

- 高潔性サーベイランス委員会またはGLOBALG.A.P.事務局によって決定されます。
- 以下のような場面で、2回目の警告を出すことがあります。
 - 1 回目の警告が、示された最終期限を過ぎても解決されていない場合

- (ii) 認証機関が、GLOBALG.A.P.事務局からの再三の書面による要求に反応しない、または報告しない場合
- (iii) 不完全な、または間違ったデータベース入力および/または発行された認証の数が、GLOBALG.A.P.番号（GGN）で 5 件以上か、あるいはその認証機関に登録された GGN の総数の 1%以上か、そのいずれかに再度達した場合
- c) 認証機関は、高潔性サーベイランス委員会が提示した再評価日数の料金の一部または全部を支払うものとしてします。

9.3.3 ステップ 3 - イエロー・カード

- a) 高潔性サーベイランス委員会によって判定および決定され、GLOBALG.A.P.事務局によって実施されます。イエロー・カードはGLOBALG.A.P.のウェブサイトで公表され、GLOBALG.A.P.のメンバーに通知されます。
- b) GLOBALG.A.P.事務局が1回以上の（再）検証評価を通じて改善の有効性を検証し、それが申し分ないと分かった場合、イエロー・カードは高潔性サーベイランス委員会によって解除することができます。
- c) 認証機関は、高潔性サーベイランス委員会が提示した再評価日数の料金の一部または全部を支払うものとしてします。
- d) イエロー・カードを、以下のような場面で発行されることがあります。
 - (i) その認証機関が改善対策を実施する期間は、認証高潔性プログラムの評価結果によります。改善の期間は高潔性サーベイランス委員会によって定められますが、12 か月を超えないものとしてします。GLOBALG.A.P.は、改善を評価するためにフォローアップ評価の予定を立てます。
 - (ii) 再評価で観察された改善が十分でない場合
 - (iii) ステップ 2 - 2 回目の警告の後に、GLOBALG.A.P.事務局からの書面による要求に対して反応がない場合
 - (iv) ステップ 2 - 2 回目の警告の後に、不完全な、または間違ったデータベース入力および/または発行された認証の数が GLOBALG.A.P.番号（GGN）で 5 件以上か、あるいはその認証機関に登録された GGN の総数の 1%以上か、そのいずれかに再度達した場合

9.3.4 ステップ 4 - レッド・カード

- a) 高潔性サーベイランス委員会によって判定および決定され、GLOBALG.A.P.事務局によって実施されます。レッド・カードはGLOBALG.A.P.のウェブサイトで公表され、GLOBALG.A.P.のメンバーに通知されます。
- b) GLOBALG.A.P.ライセンスの使用が、一時的に完全にまたは部分的に禁止されます。つまり、認証機関は、次の通知があるまで新しい認証を発行すること、または認証を再発行することを認められません。
- c) 認証機関の運用に対する確固たる信頼が再度確かめられた場合にのみ、高潔性サーベイランス委員会はこの制裁を解除することができます。
- d) 認証機関は、検証の（再）評価について料金を支払います。
- e) 以下の場合には、レッド・カードを発行することがあります（このリストが全てではありません）：
 - (i) 再三の再評価に関わらず、認証機関の成績が十分な改善を示さない場合

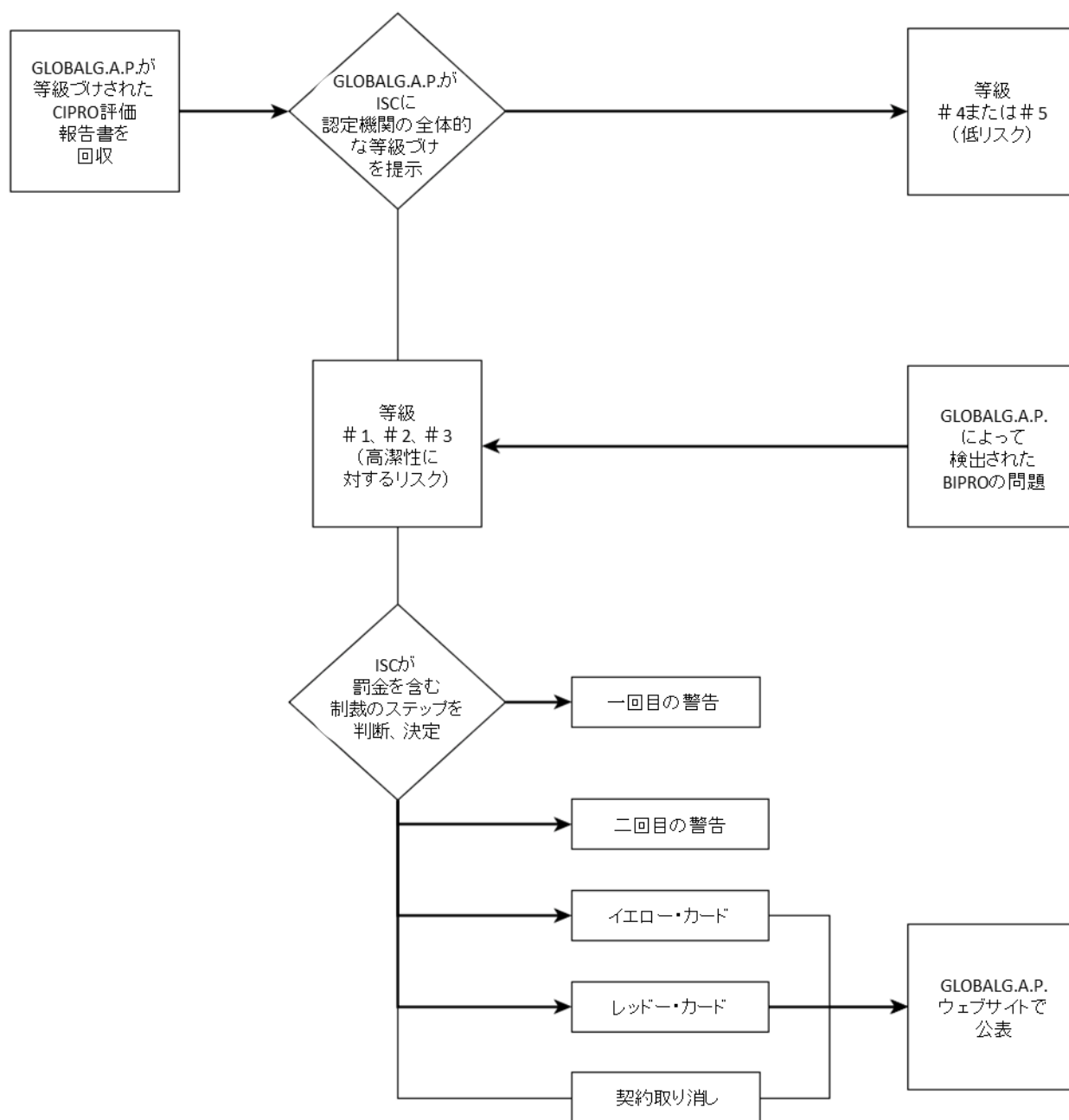
- (ii) 提示された最終期限を過ぎても、イエロー・カードが解除されていない場合
 - (iii) 認定機関が認定を保留した場合
 - (iv) ステップ 3 - イエロー・カードの後に、不完全な、または間違ったデータベース入力および/または発行された認証の数が GLOBALG.A.P.番号 (GGN) で 5 件以上か、あるいはその認証機関に登録された GGN の総数の 1%以上が、そのいずれかに再度達した場合
- f) レッド・カードを発行されている認証機関は、GLOBALG.A.P.の承認を喪失してから5営業日以内に、すべての生産者に対し、年次の「GLOBALG.A.P.サブライセンスおよび認証契約」のための認証機関を要求する権利について（書面によって）通知するものとします。生産者からの要求に従って、認証機関は、別の認証機関への移行を許可し、手助けするものとします。認証機関がそうしなかった場合には、GLOBALG.A.P.は、GLOBALG.A.P.データベースに登録された連絡先の詳細を使用して、生産者に通知するものとします。また生産者からの要求に応じてGLOBALG.A.P.データベースのGGNを解除し、生産者が別の認証機関に移行できるようにするものとします。

9.3.5 ステップ 5 - 契約取り消し

- a) 高潔性サーベイランス委員会によって判定および提案され、GLOBALG.A.P.事務局によって決定および実施されます。契約取り消しはGLOBALG.A.P.のウェブサイトで公表され、GLOBALG.A.P.のメンバーに通知されます。
- b) 「GLOBALG.A.P.ライセンスおよび認証契約」の取り消しは、少なくとも2年間科されるものとします。
- c) 同等な認証システムのオーナーには、GLOBALG.A.P.と同等な認証システムを運用している認証機関に対して、この制裁を執行する責任があります。
- d) GLOBALG.A.P.の承認を喪失した認証機関は、喪失から5営業日以内に、すべての生産者に対し、年次の「GLOBALG.A.P.サブライセンスおよび認証契約」のための認証機関を要求する権利について（書面によって）通知するものとします。生産者からの要求に従って、認証機関は、別の認証機関への移行を許可し、手助けするものとします。
 認証機関がそうしなかった場合には、GLOBALG.A.P.は、GLOBALG.A.P.データベースに登録された連絡先の詳細を使用して、生産者に通知するものとします。また、生産者からの要求に応じてGLOBALG.A.P.データベースのGGNを解除し、生産者が別の認証機関に移行できるようにするものとします。
- e) 契約取り消しは、以下のような場合に発生します（これらに限定されません）。
 - (i) 不正行為が確認された場合
 - (ii) 合意された締め切りまでに、レッド・カードの制裁を解除できなかった場合
 - (iii) 破産
 - (iv) 認定の喪失

認証高潔性プログラムの制裁手順を示すフローチャート

(BIPRO = Brand Integrity Program (ブランド高潔性プログラム) , CIPRO = Certification Integrity Program (認証高潔性プログラム))



別紙 III.1: GLOBALG.A.P.の認証機関の検査員資格（オプション 1 および 3）

1 GLOBALG.A.P.のサブスコープの検査員

- a) 一旦、認証機関が各サブスコープの資格および経験に関する事実証拠（以下に記載）を確認したならば、検査員は農場レベルでのサブスコープを検査することができます。

2 公式な資格および実務経験

- a) 認証スコープに関連する分野（農作物および/または畜産物および/または水産養殖）における少なくとも高等学校卒業よりも後の学位（中等教育の後）、あるいは同等の教育（最低 2 年間のコース）および、
高等学校よりも後の教育修了後の農業分野における最低 2 年の実務経験、および合計 3 年間の実務経験あるいは、
- b) 食品関連分野における最低 2 年間の教育を含む、高等学校卒業よりも後の学位
および、
農場/サイトでの実用的な能力に関わる、あるいは関連する認証スコープ（農作物および/または畜産物および/または水産養殖）における生産管理技術職の、最低 4 年間の実務経験

3 技術的なスキルおよび資格

3.1 検査員トレーニング

検査の基本原則に関する 1 日の実務的な検査コース。

3.2 食品安全、G.A.P.トレーニング、および実務経験

- a) 公式な資格の一部として、あるいはコーデックス委員会の原則に基づく正式なコース（正式なコースは認証機関による内部トレーニングでも差し支えない）の良好な結果での修了を通してのいずれかによる、HACCP 原則のトレーニング。トレーニング期間は少なくとも 8 時間以上であるものとします。この要求事項の目に見える証拠として、期間および内容を示せなければなりません（コース証明書、正式な資格に含まれるトレーニングの証拠など）。花卉観葉植物、および/または栽培用種苗だけの検査員向けのコース期間は、より短くすることができます。
- b) 公式な資格の一部として、あるいは正式なコース（正式なコースは認証機関による内部トレーニングでも差し支えない）の良好な結果での修了を通してのいずれかによる、食品衛生トレーニング。正式なコース期間は少なくとも 8 時間以上であるものとします。この要求事項の目に見える証拠として、期間および内容を示せなければなりません（コース証明書、正式な資格に含まれるトレーニングの証拠など）。食品衛生トレーニング・コースは、次の内容を網羅しているものとします：サイト管理、水、肥料、設備、施設、および個人の衛生。また実務的なケーススタディを含むものとします。既に承認されている検査員には、このトレーニングを修了するまで、GLOBALG.A.P. IFA バージョン 5 の発行後に 1 年間の移行期間があります。

a) 項および b) 項のトレーニングの両方を、同じ正式なコース（最短 16 時間）内で一緒に修了することができます。

食品衛生コースは、花卉観葉植物、および/または栽培用種苗の検査員には必要ありません。

- c) GLOBALG.A.P.のオンライン・トレーニングにおいてすべてのオンライン・テストに合格し、それぞれの版の更新について検査員の使用する言語で発表されてから 3 か月以内に、オンライン・トレーニングを受けて合格すること。
- d) GLOBALG.A.P.またはその他 GFSI が認証した試験業者を通じた世界食品安全イニシアチブ（GFSI）の「農場を出るまで（pre-farm gate）」の知識試験（利用可能となった場合）
- e) **農作物のスコープについて：** 公式な資格の一部として、あるいは正式なコースの良好な結果での修了による、農薬、肥料、および IPM トレーニング。ホップのサブスコープではホップ特有のトレーニング。
- f) **畜産物および水産養殖について：** 基礎的な獣医学、ならびに動物の健康と福祉の内容を含む畜産技能トレーニング。
- g) **水産養殖の基準について：** 食品加工における基礎的な経験（AQ 12 および 13 の検査のため）、および GRASP トレーニング（「GRASP 一般規則」に従って）。
- h) 要求される経験は、それぞれのスコープにおける業務を含み、以下の表に従って、1 つ以上のスコープおよび/またはサブスコープ/グループを同時に満たすこともあります。

検査員に、以下に関連する 3 年以上の実務経験がある場合	以下のサブスコープ/グループを検査することが可能
FV	FV、CC、FO、PPM、Tea（トレーニングの後 HO）
FO	FO、PPM、Tea
CC	CC、PPM、FO、Tea、HO
PPM	PPM、FO（トレーニングの後 HO）
Tea	Tea、PPM、FO（トレーニングの後 HO）
HO	HO、CC
反芻動物（CS、DY、CYB）	CS、DY、CYB
PG	PG
PY	PY、TY
TY	PY、TY
魚	魚、甲殻類、軟体動物
甲殻類	魚、甲殻類、軟体動物
軟体動物	軟体動物
CFM	CFM

スコープ内で特定のサブスコープ/グループを追加して監査/検査するためには、生産実習の公式なコースの証拠、およびサブスコープ/グループに特有の作業経験（つまり、1 年の作業経験または 10 日間の実地立会い評価）が要求されます。

公式なコース（上記の a）、b）、e）、f）、および g）項に述べられている）は、公式な資格（学位/卒業証書）の一部、あるいは検査員が別々に取得したコースでもよいこととします。検査員は資格の証拠を示せなければなりません。その示した証拠が学位/卒業証書の一部である場合、その学位課程の概要に記載されているものとします。学位を別々に取得した場合、これらの内容を網羅する学位課程を修了した（試験を含む）ことを示す、別々の証明書がなければなりません。

3.3 コミュニケーションのスキル

- a) 母国語/業務言語に対応する「業務言語」のスキル。これには、それぞれの業務言語の中の現地で使用されている専門用語を含みます。
- b) この規則に対する例外については、GLOBALG.A.P.事務局と協議を行い、事前に GLOBALG.A.P.事務局によって書面で確認されるものとします。

3.4 認証機関による契約前の初回トレーニング

- a) 認証機関は、候補者/研修生向けに設定されたトレーニング・プログラムを実施します。
- b) 申請者である検査員は、関連するサブスコープの、オプション 1 の生産者またはオプション 2 の生産者グループ・メンバーの検査に少なくとも 1 回はオブザーバーとして参加するものとします。
認証機関が承認された（現在有効なバージョンの）検査員を引き継ぐ（雇用する）場合、「関連するサブスコープの最低 1 戸のオプション 1 の生産者または 1 戸のオプション 2 の生産者グループ・メンバーの検査を監視する」ルールは適用されません。
- c) 認証機関は、既に資格のある検査員または監査員によって、サブスコープごとに、オプション 1 の生産者またはオプション 2 の生産者グループ・メンバーの検査の立会い確認を少なくとも一回実施するものとします。
- d) 認証機関は（利用可能な場合）GLOBALG.A.P.の立会い評価ツールを使用することとします。
- e) その認証機関の 1 人目の検査員の場合には、認証機関の内部手続きが適用されます。
- f) 最低限の要件として、認証機関は以下の項目で能力を確認するものとします：
 - 与えられたサブスコープにおける技術的知識
 - 食品安全リスク/食品の危害要因を特定する力量
 - HACCP システムを評価し、必須管理点を特定する/疑う力量
 - 農薬、施肥、および IPM 理論（農作物向け）の最新知識
 - 健康および福祉の要求事項を含む、基礎的な獣医学および畜産技能の最新知識（畜産/水産養殖）
 - トレーサビリティ・チェックおよびマスバランス分析を実施する力量
 - 管理点が地域の法令を参照している場合、関連する要求事項の知識
 - 検査/監査を行なうことができるだけの、十分なコミュニケーションおよび行動スキル
 - 母国語/業務言語に対応する「業務言語」のスキル

3.5 能力の維持

- a) 認証機関は、全ての検査員/監査員がスキームの知識を維持し、GLOBALG.A.P.データベースへの登録を継続するために、各 GLOBALG.A.P.基準（例えば、IFA（サブスコープおよび PSS を含む）、CoC、CFM など）、承認済みの修正チェックリスト、または同じサブスコープのフルベンチマークスキームに対して、異なる生産者において一年間で少なくとも 5 回の検査/監査を行うか、あるいは 10 日間の検査/監査を行うことを確実にするための手順を整備しなければなりません。
- b) 立会い検査/監査は、能力維持のために許容できるものとします。
- c) この規則に対する例外は、例えば、認証機関に合計 5 件の顧客がいない場合、GLOBALG.A.P.事務局と協議が行われ、事前に GLOBALG.A.P.事務局による書面での確認を得るものとします。
- d) 認証機関は、GLOBALG.A.P.検査員のそれぞれについて能力を確認するために、GLOBALG.A.P.の立会い検査および/または再検査を、少なくとも 4 年に 1 回実施するものとします。
- e) これらの要求事項は、検査を実施しないスキーム・マネージャーには適用されません。
- f) ある年から別の年に能力を維持することができない場合、3.4 が適用されるものとします。

3.6 検査員のローテーション

- a) 認証機関は、ある生産者（オプション 1）を同じ検査員が（検査の事前通知の有無に関わらず）4 年連続で検査しないことを確実にするような手順を整備しなければなりません。
- b) オプション 2 および QMS を伴うオプション 1 マルチサイトの下では、監査チームの中の監査員はローテーションしなければなりません（同じ QMS の監査を 4 年連続で行ってはならない）。ただし、監査チームの中の検査員は同じかもしれません。

例えば、検査員 #1 がある生産者の 1、2、3、4 年目の検査を実施した場合、5 年目は別の検査員（検査員 #2）が年次の検査を実施しなければなりません。検査員 #1 が再び 6、7、8、9 年目の検査を 4 年連続で実施することもできます。これは生産者グループメンバーの検査にも適用されます。
- c) その認証機関がある国/地域に一人しか検査員を擁していない場合、状況に応じて例外が適用されることもあります。免除期間は 12 か月間です。

4 主要な作業

4.1 GLOBALG.A.P.の農場検査

- a) GLOBALG.A.P.基準への適合を評価するための農場の検査（生産者、マルチサイト企業の生産サイト、あるいは生産者グループの生産者メンバーのいずれか）。これには、生産者グループまたはオプション 1 QMS を伴うマルチサイトの内部検査員のシャドー検査を含むことがあります。
- b) ISO 17065 および GLOBALG.A.P.のタイムライン、ならびにシステムの要求事項に従って、適時に正確な検査報告書を作成すること。

4.2 一般事項

- a) すべての品質方針、手順、作業指示、および認証機関によって発行された文書の最新ファイルを維持すること。
- b) 検査が実施されるスコープに関連する進展、問題、および法令の変更に後れを取らないようにすること。
- c) 認証機関が割り当てたその他の作業は、それらの活動が ISO 17065 の原則、または GLOBALG.A.P. 一般規則に定められたいかなる規定にも相反しない限り、GLOBALG.A.P. の範囲外であっても実施すること。

4.3 独立性および機密性

- a) 検査員は、独立性または公平性に影響する可能性のある活動を実施することは許可されておらず、特に賄賂を受け取ること、また、検査を行う生産者に対し直近の 2 年間でコンサルタント活動を実施することは許可されていません。管理システムまたは監査に関連するコースで実施されるトレーニングはコンサルタント活動とはみなされません。それは公開ドメインで自由に入手可能な一般的な情報の提供に限定されており、つまり、トレーナーは企業固有の解決策を提供することはできません。
- b) 検査員は、情報および記録の機密性を維持するために、生産者および認証機関の手順を厳格に守るものとしてします。

別紙 III.2: GLOBALG.A.P.の認証機関の監査員資格（オプション 1 QMS を伴うマルチサイト、ならびにオプション 2 および 4）

1 GLOBALG.A.P.のサブスコープの監査員

- a) 監査員は、認証機関が少なくとも 1 つのサブスコープについての資格および経験の事実証拠（以下に記載のとおり）を一旦確認したならば、すべてのサブスコープの品質マネジメント・システムを監査することができます。ただし、生産者および生産サイトの検査は、サブスコープ特有の資格を必要とします。

2 公式な資格および実務経験

- a) 認証スコープに関連する分野（農作物および/または畜産物および/または水産養殖および/または飼料製造/動物栄養）における少なくとも高等学校卒業よりも後の学位（中等教育の後）、あるいは同等の教育（最低 2 年間のコース）
および、
高等学校よりも後の教育修了後の農業分野における最低 2 年の実務経験、および合計 3 年間の実務経験
あるいは、
- b) 食品関連分野における最低 2 年間教育を含む、高等学校卒業よりも後の学位
および、
農場/サイトでの実用的な能力に関わる、あるいは関連する認証スコープ（農作物および/または畜産物および/または水産養殖）における生産管理技術職の、最低 4 年間の実務経験

3 技術的なスキルおよび資格

3.1 リード評価者のトレーニング

- a) マネジメント・システムにおける最短で 10 日間の実務的な監査経験（例えば、ISO 9000、ISO 14000、ISO 22000、OSHA 18000、BRC 食品、IFS 食品、以前の GLOBALG.A.P.のオプション 2 またはオプション 4、有機栽培またはその他の栽培の生産者グループの監査）。これには監査の立会い確認または観察を含んでいませんが、トレーニング中の監査員によって実地確認されたり、または観察されたりすることは含まれます。
- b) ISO 19011 の原則に基づいており、その業界で外部的に認められている、最短 37 時間のリード評価者トレーニング・コースの良好な結果での修了。認証書にはコース内容および期間が明記されているものとします。良好な結果での修了は認証書において証明されるものとします。
- c) リード評価者トレーニング・コースは、品質監査、監査技術、監査の焦点（心理面およびコミュニケーション）、および報告に関する適用可能な基準を対象とし、また、それは実務的な事例研究を含むものとします。

3.2 食品安全、G.A.P.トレーニング、および実務経験

- a) 公式な資格の一部として、あるいはコーデックス委員会の原則に基づく正式なコース（正式なコースは認証機関による内部トレーニングでも差し支えない）の良好な結果での修了を通してのいずれかによる、HACCP 原則のトレーニング。トレーニング期間は少なくとも 8 時間以上であるものとします。この要求事項の目に見える証拠として、期間および内容を示せなければなりません（コース証明書、公式な資格に含まれるトレーニングの証拠など）。のために提示された証拠に示されるものとします。花卉観葉植物、および/または栽培用種苗だけの監査員向けのコース期間は、より短くすることができます。
- b) 公式な資格の一部として、あるいは正式なコース（正式なコースは認証機関による内部トレーニングでも差し支えない）の良好な結果での修了を通してのいずれかによる、食品衛生トレーニング。少なくとも 8 時間以上の食品衛生トレーニング・コースの良好な結果での修了。この要求事項を満たしている証拠として、期間および内容が示されるものとします（コース証明書、公式な資格に含まれるトレーニングの証拠など）。食品衛生トレーニング・コースは、サイト管理、水、肥料、設備、施設、および個人の衛生を対象とするものとしますし、また、それは実務的な事例研究を含むものとします。既に承認された審査員には、このトレーニングを修了するために、GLOBALG.A.P. IFA バージョン 5 の発行後に 1 年間の移行期間があります。a) 項および b) 項のトレーニングの両方とも、同じ正式なコース（最短期間 16 時間）内で一緒に修了することができます。食品衛生コースは、花卉および観葉植物、および/または栽培用種苗の監査員には必要ありません。
- c) 公式な資格の一部として、あるいは配合飼料製造基準のための公式なコースの、良好な結果での修了による、食品/飼料衛生トレーニング。
- d) GLOBALG.A.P.またはその他 GFSI が認証した試験業者を通じた世界食品安全イニシアチブ（GFSI）の「農場を出るまで（pre-farm gate）」の知識試験（利用可能となった場合）
- e) GLOBALG.A.P.のオンライン・トレーニングには、すべてのオンライン・テストに合格し、トレーニングリリース後 3 か月以内に検査員の言語にて更新すること。
- f) **農作物の基準について:** 公式な資格の一部として、あるいは公式なコースの良好な結果での修了による、植物保護、肥料、および IPM トレーニング。ホップのサブスコープに関しては、ホップ限定のトレーニングがあります。
- g) **家畜および水産養殖の基準について:** 基礎的な獣医学、ならびに動物の健康および福祉の問題を含む畜産技能トレーニング。
- h) **水産養殖の基準について:** 食品加工（AQ 12 および 13 の検査）における基礎的な経験、および GRASP トレーニング（「GRASP 一般規則」に従って）。
- i) **CFM 基準について:** 活動のスコープに適用可能な、地域内の/国内の飼料の関連法令の知識。
- j) 必要な経験は、それぞれのスコープにおける作業を含み、以下の表に従って、1 つ以上のスコープおよび/またはサブスコープ/グループのために同時に獲得されている可能性があります。

監査員に、以下に関連する 3 年以上の実務経験がある場合	以下のサブスコープ/グループを監査/検査することは可能
FV	FV、CC、FO、PPM、Tea、HO (トレーニングの後)
FO	FO、PPM、Tea
CC	CC、PPM、FO、Tea、HO
PPM	PPM、FO、HO (トレーニングの後)
Tea	茶、PPM、FO、HO (トレーニングの後)
HO	HO、CC
反芻動物 (CS、DY、CYB)	CS、DY、CYB
PG	PG
PY	PY、TY
TY	PY、TY
魚	魚、甲殻類、軟体動物
甲殻類	魚、甲殻類、軟体動物
軟体動物	軟体動物
CFM	CFM

範囲スコープ内での追加的な特定のサブスコープ/グループを監査/検査するために、生産慣行の公式なコースの証拠、およびサブスコープ/グループ特有の作業経験（つまり、1 年の作業経験または 10 日間の実地確認によるアセスメント）が要求されます。

CFM については、飼料、栄養、または食品産業における、（全体で）3 年間の実務経験が必要です。

公式なコース（上記の a）、b）、c）、f）、g）、および h）項に述べられている）は、公式な資格（学位/卒業証書）の一部とすることができ、あるいは監査員によって取得された別々のコースとすることができます。監査員は、資格の証拠を提示するものとします。それが学位/卒業証書の一部だった場合、そのコースの概要にあるものとします。あるいは、それが別々に得られていた場合、これらの事項を対象とするコースが修了した（試験を含む）ことを示す、別々の認証書があるものとします。

3.3 コミュニケーションのスキル

- 母国語/業務言語に対応する「業務言語」のスキル。これには、局所的に使用されている専門用語をこの業務言語に含めるものとします。
- この規則に対する例外は、GLOBALG.A.P.事務局と事前に協議されるものとします。

3.4 認証機関による契約前の初回トレーニング

- a) 認証機関は、候補者/研修生向けに設定されたトレーニング・プログラムを受けさせるものとします。
- b) 監査員希望者は、最低でも、1つのオプション1の生産者または1つのオプション2の生産者グループ・メンバーの関連するサブスコープの1回の検査、および既に資格のある検査員または審査監査員による1回の審査に、オブザーバーとしてそれぞれ参加するものとします。CFM 監査員の場合には、QMS 監査の観察は適用されません。

認証機関が承認された（現在有効なバージョンの）監査員を引き継ぐ（雇用する）場合、「関連するサブスコープの最低1戸のオプション1の生産者または1戸のオプション2の生産者グループ・メンバーの検査を監視する」ルールは適用されません。

- c) 認証機関は、申請者である審査員によって、サブスコープごとに、オプション1の生産者またはオプション2の生産者グループ・メンバーの最低1回の検査および1回のQMS 監査を実地確認するものとします。検査員または監査員は、検査を実地確認することができますが、監査員だけが監査を実地確認することができます。CFM 監査員の場合には、QMS 監査時に実地確認されることはありません。
- d) 認証機関は、GLOBALG.A.P.検証評価ツールを使用するものとします。（使用可能になり次第）
- e) 認証機関の最初の監査員の場合、認証機関の内部手順が適用されるものとします。
- f) QMS 監査員は GLOBALG.A.P. QMS 監査員トレーニングに参加し、新しい基準のバージョンごとの試験に合格するものとします。CFM 監査員の場合には、この要求事項は適用されません。
- g) 最低限の要件として、認証機関は以下の項目で力量を検証するものとします。
- 与えられたサブスコープにおける技術知識
 - 食品安全リスク/食品の危険を特定する力量
 - HACCP システムを評価し、重要管理点を特定する/疑う力量
 - 植物保護製品、施肥、および IPM 方針（農作物用）の最新の知識
 - 基礎的な獣医学および畜産技能の最新の知識、ただし、健康および福祉の要求事項（家畜/水産養殖の場合）を含む
 - トレーサビリティ・チェックおよびマスのバランスの分析を実施するための力量
 - 管理点が地方の法令を参照する場合には常に、関連する要求事項の知識
 - 検査/監査を行なうことができるように、十分なコミュニケーションおよび行動ができるスキルを持っていること
 - 母国語/業務言語に対応する「業務言語」のスキル

3.5 能力の維持

- a) 認証機関は、スキームの知識を維持し、GLOBALG.A.P.のデータベースに登録されたままとするために、各 GLOBALG.A.P.の基準（例えば、IFA（サブスコープおよび PSS を含む）、CoC、CFM など）、AMC、または完全にベンチマーク済みのスキームに対して、多数の異なる生産者において少なくとも5回の検査/審査を行うか、あるいは10日間の検査/監査を確実に実行するよう手順を整備することとします。
- b) 実地確認検査/監査は、さらに能力を維持するために許容できるものとします。

- c) この規則に対する例外は、例えば、認証機関に合計 5 件の顧客がない場合、事前に GLOBALG.A.P. 事務局との協議が行われ、GLOBALG.A.P.事務局による書面での確認を得るものとします。
- d) これらの要求事項は、認証機関の意思決定委員会の主要な作業を担う監査員には有効ではありません。
- e) 認証機関は、能力を検証するために、GLOBALG.A.P.の監査員のそれぞれについて、GLOBALG.A.P. 実地監査および/または再監査を少なくとも 4 年に 1 回実施するものとします。
- f) 1 年以上能力を維持することができない場合、3.4 が適用されるものとします。

3.6 監査員のローテーション

- a) 認証機関は、同一の監査員が 4 年連続で生産者（オプション 1）の検査を行わないよう手順を整えることとします。（事前通知監査か非通知監査かに関わらず）
- b) オプション 2 およびオプション 1 QMS を伴うマルチサイトにおいては、監査員チームの監査員を交代するものとします（4 年以上連続で同じ QMS の監査を行わない）。一方で、監査員チームの検査員も同様です。例えば、監査員 #1 が QMS グループを 1 年目から 4 年目まで監査した場合、5 年目には他の監査員（監査員 #2）が監査を行わなければなりません。6 年目から 9 年目には、監査員 #1 が再び 4 年連続の監査をすることができます。これは、グループメンバー検査員にも適応されます。
- c) 国または地域に、認証機関の監査員が一人しかいない場合、個別に例外が認められます。適応除外期間は、12 カ月とします。

4 主要な作業

4.1 GLOBALG.A.P.の QMS 監査

- a) 生産者グループおよび GLOBALG.A.P.のウェブサイトで入手可能な QMS チェックリストに従い GLOBALG.A.P.の基準を順守した QMS を実施しているオプション 1 のマルチサイトの品質マネジメントシステムの監査およびアセスメント。
- b) ISO 17065 の要求事項および GLOBALG.A.P.の予定、ならびにシステムの要求事項に従って、そのような監査に関して適時に正確な報告書を作成すること。

注記: 青果物のスコープで資格を与えられた監査員は、豚について認証を取得しようとしているグループの QMS を審査監査することができます。ただし、この監査員は、豚生産者の農場検査を行なうことができません。

4.2 GLOBALG.A.P.の農場検査

- a) GLOBALG.A.P.の基準の順守を評価するための農場の検査（生産者または生産者サイト（オプション 1）、あるいは生産者グループ内の生産者（オプション 2）のいずれか）。これには、生産者グループまたはオプション 1 QMS を伴うマルチサイトの内部検査員のシャドー検査を含むことができます。
- b) ISO および GLOBALG.A.P.の予定、ならびにシステムの要求事項に従って、そのような検査に関して適時に正確な報告書を作成すること。

4.3 一般事項

- a) すべての品質方針、手順、作業指示、および認証機関によって発行された文書の最新ファイルを維持すること。
- b) 監査が実施されるスコープに関係する進展、問題、および法令上の変化に通じていること。
- c) 認証機関が GLOBALG.A.P.のスコープ外で割り当てることができる他のすべての作業を実施すること。ただし、これらの活動が EN 45011 または ISO/IEC Guide 17065 の原則または GLOBALG.A.P.の一般規則で定められた規定に反しない限りとします。

4.4 独立性および機密性

- a) 監査員は、自ら実施した監査または検査に関して、最終的な認証の決定をすることは許可されていません。
- b) 監査員は、独立性または公平性に影響する可能性のある活動を実施することは許可されていません。具体的には賄賂を受け取ること、また、検査を行う生産者のために、過去 2 年間にコンサルタント活動を実施することは許可されていません。トレーニングがマネジメントシステムまたは監査に関連するコースである場合、公開されている場所で自由に入手可能な一般的な情報の提供に限定されており、トレーニングはコンサルタントの仕事であるとは見なされていません。つまり、トレーナーは企業固有の解決策を提供することはできません。
- c) 監査員は、情報および記録の機密性を維持するために、生産者および認証機関の手順を厳格に守るものとします。

改訂履歴

新版	旧版	発行日	変更内容
190919_GG_GR_Part_I II_V5_2_ja	180921_GG_GR_Part_ III_V5_1_ja	2019 年 9 月 19 日	5.2 (iii) – 2 週から 4 週に変更 5.4.2.1 c) 例 2 – 訂正 5.4.2.1 g) – 明確化 6.1. g) – 明確化 6.1 – 新規項目 m)を追加 9.2.1.1 分類 4 および 5 – 明確化 Annex III.1, 3.2 d) – 新規要求事項 Annex III.1, 3.4 b) – 明確化 Annex III.1, 3.4 c) – 訂正 Annex III.1, 3.5 a) – 明確化 Annex III.2, 3.2 e) – 新規要求事項 Annex III.2, 3.4 b) – 明確化 Annex III.2, 3.4 c) – 訂正 Annex III.2, 3.5 a) – 明確化

本文書の変更についてより詳細な情報が必要な方は、[変更箇所を表示した文書](#)をお読みいただくか、

GLOBALG.A.P.事務局にメール (translation_support@globalgap.org) でお問合せ下さい。

改訂の内容によって規格に新たな要求が導入されない場合、版名は「5.0 版」のままとし、更新履歴上には「5.0-x 版」と表示します。改訂内容が規格への準拠に影響する場合、版名を「5.x 版」に変更します。新版 (例：6.0 版、7 版等)は常に規格の認定に影響します。

著作権

© Copyright: GLOBALG.A.P. c/o FoodPLUS GmbH: Spichernstr. 55, 50672 Cologne; Germany. 変更を加えない場合に限り複写と配布を認めます。